Ⅱ　令和7年(2025 年)鉱工業指数の動向

1 概　　況

（1）生産動向　　－　生産指数は低下　－

令和７年の生産指数（原指数）は、前年比▲0.6%の 98.5 となり、４年連続で低下した。四半期別にみると季節調整済指数は、Ⅰ期は前期比▲0.1%で 98.0、Ⅱ期は同 0.6%の上昇となり 98.6、Ⅲ期は同 0.8%の上昇で 99.4、Ⅳ期は同▲1.7%となり 97.7 となった。

また原指数は、Ⅰ期 96.6（前年同期比 1.3%）、Ⅱ期 97.8（同▲3.4%）、Ⅲ期 98.2（同 0.6%）、Ⅳ期 101.5（同▲0.8%）と、令和７年は四半期別で交互に前年を上回ったり、下回ったりした。

（図 1、表 1、図 2、図 3、統計表第 1-1 表、統計表第 3 表）

年間指数を業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業、電気機械工業などの８業種が低下し、化学工業、プラスチック製品工業、窯業・土石製品工業などの５業種が上昇した。

（表 2、図 4、表 3、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）

年間指数の財用途別生産指数（原指数）は、最終需要財が前年比▲4.7%で 98.4 となり、生産財が同 3.1%の上昇で 98.7 となったが、全体で同▲0.6%で 98.5 となった。

最終需要財は、投資財（寄与度▲3.12）が同▲12.3%で 87.2 となり、消費財（寄与度 0.91）が同 4.2%の上昇で 112.5 となったことにより、全体では同▲4.7%で 98.4 となった。

生産財は、鉱工業用生産財（寄与度 1.54）が同 3.0%の上昇で 99.3 となった。

（表 4、図 7、統計表第 2-1 表）

図1 鉱工業指数(四半期季節調整済 令和2年=100)

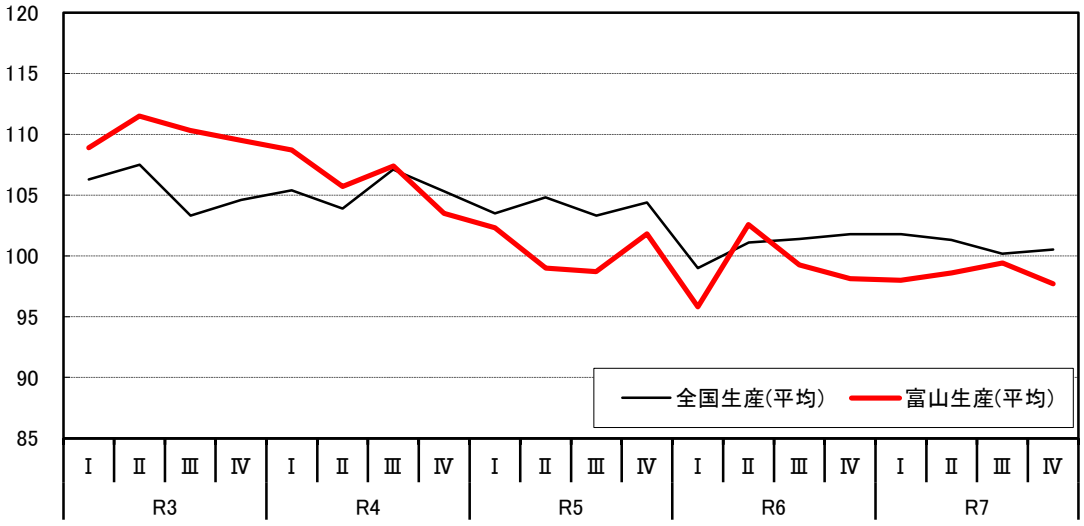


表1　鉱工業生産指数の推移

令和2年=100

	富山			全国		
	指数	前年比(%)	前期比(%)	指数	前年比(%)	前期比(%)
暦年推移(原指数)						
令和3年	110.2	10.2	－	105.4	5.4	－
4年	106.2	▲ 3.6	－	105.3	▲ 0.1	－
5年	100.6	▲ 5.3	－	103.9	▲ 1.3	－
6年	99.1	▲ 1.5	－	101.2	▲ 2.6	－
7年	98.5	▲ 0.6	－	100.9	▲ 0.3	－
令和7年四半期別推移(季節調整済指数)						
Ⅰ期	98.0	－	▲ 0.1	101.8	－	0.0
Ⅱ期	98.6	－	0.6	101.3	－	▲ 0.5
Ⅲ期	99.4	－	0.8	100.2	－	▲ 1.1
Ⅳ期	97.7	－	▲ 1.7	100.5	－	0.3

注：全国指数は「経済産業省　鉱工業指数」から転載

図2　令和7年(2025年)生産指数の動き

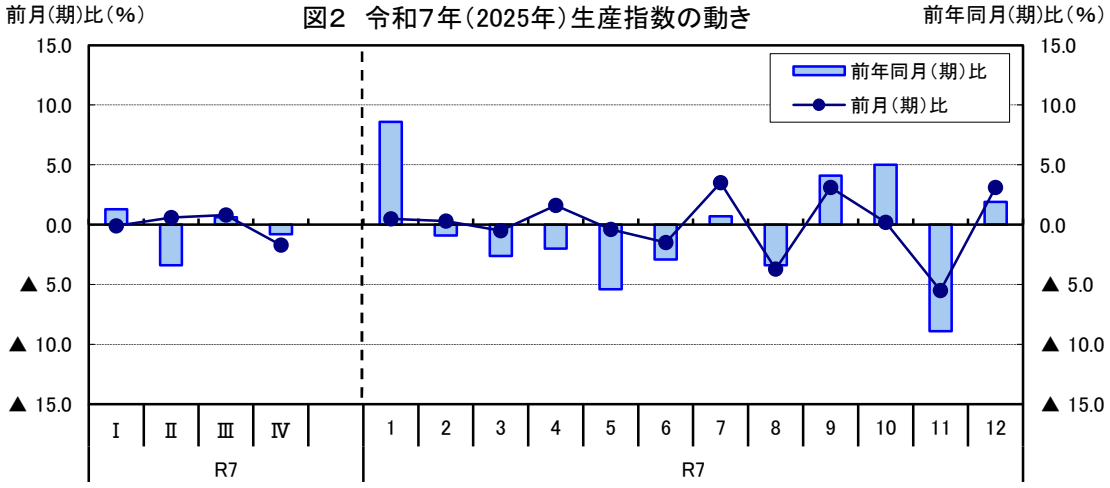


図3　生産指数の推移(四半期)

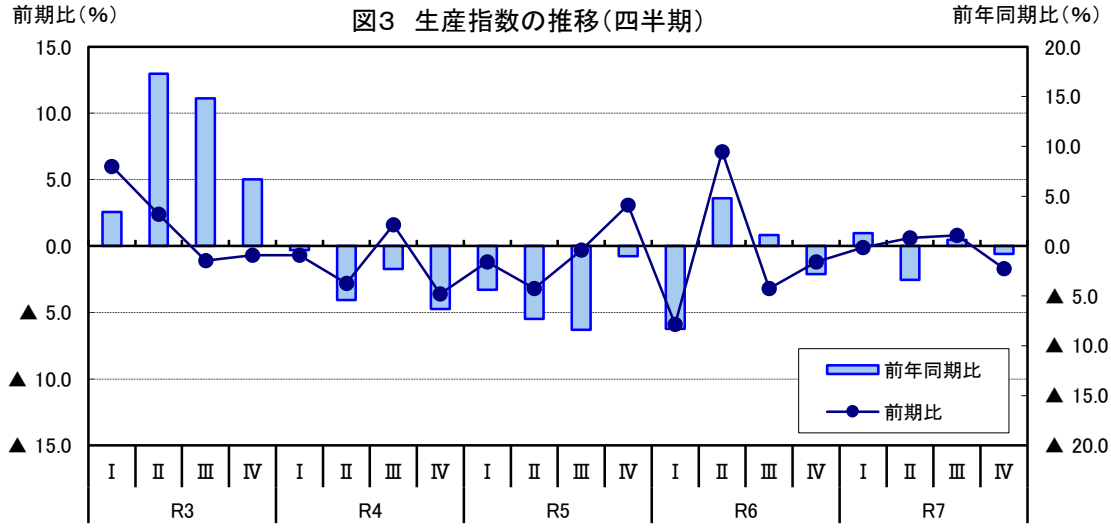


表2 生産指数(年平均)

令和2年＝100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比	寄与度	全国(参考)
	ウェイト	令和6年	令和7年	(%)	(%ポイント)	ウェイト
鉱工業	10000.0	99.1	98.5	▲ 0.6	▲ 0.61	10000.0
製造工業	10000.0	99.1	98.5	▲ 0.6	▲ 0.61	9983.5
鉄鋼業	370.5	87.4	86.5	▲ 1.0	▲ 0.03	341.7
非鉄金属工業	607.4	102.5	100.9	▲ 1.6	▲ 0.10	254.8
金属製品工業	1163.3	97.7	91.5	▲ 6.3	▲ 0.73	452.5
汎用・生産用・業務用機械工業	1731.4	100.0	88.9	▲ 11.1	▲ 1.94	1451.9
電気機械工業	1199.3	87.9	85.7	▲ 2.5	▲ 0.27	674.2
輸送機械工業	264.8	139.3	149.6	7.4	0.28	1502.4
窯業・土石製品工業	298.9	104.7	116.6	11.4	0.36	352.8
化学工業	2097.3	101.4	108.1	6.6	1.42	1233.0
医薬品	1415.3	110.9	118.9	7.2	1.14	218.7
プラスチック製品工業	730.7	93.4	100.5	7.6	0.52	464.7
パルプ・紙・紙加工品工業	337.9	101.1	104.8	3.7	0.13	236.5
繊維工業	159.8	97.3	92.2	▲ 5.2	▲ 0.08	150.1
食料品工業	507.9	99.6	96.7	▲ 2.9	▲ 0.15	1377.9
その他工業	530.8	103.4	103.1	▲ 0.3	▲ 0.02	693.9

$$※寄与度 = \frac{(当年業種指数 - 前年業種指数) \times 業種ウェイト}{前年鉱工業指数 \times 鉱工業ウェイト} \times 100$$

前年比(%)　　図4　業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

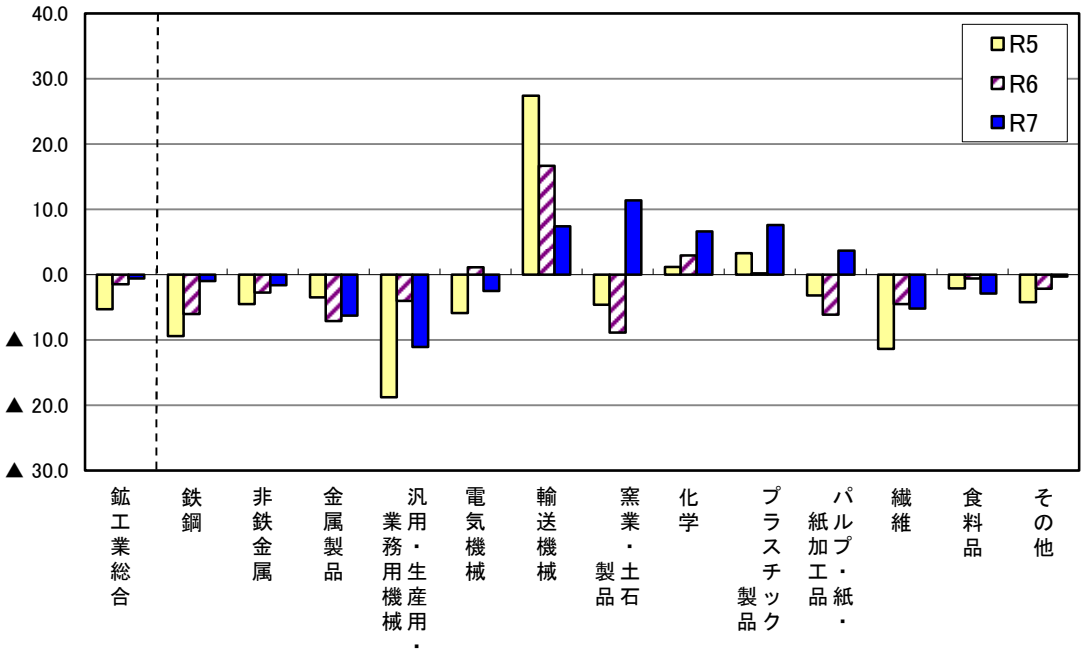


表3　業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業　　種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 1.94		ロボット・産業機械
	金属製品工業	▲ 0.73		建築用金属製品
	電気機械工業	▲ 0.27	電子回路	
	食料品工業	▲ 0.15		飲料
	非鉄金属工業	▲ 0.10	アルミニウム二次精錬	非鉄金属圧延製品
	繊維工業	▲ 0.08	染色整理	衣類
	鉄鋼業	▲ 0.03	－	鋳鍛鋼品類
	その他工業	▲ 0.02		
上昇業種	パルプ・紙・紙加工品工業	0.13		－
	輸送機械工業	0.28		
	窯業・土石製品工業	0.36		ガラス製品
	プラスチック製品工業	0.52	プラスチック製フィルム・シート	建材・強化製品
	化学工業	1.42	医薬品	医薬品原末・原液

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「－」は該当品目がない項目です。

図5　業種別生産指数前年比と寄与度

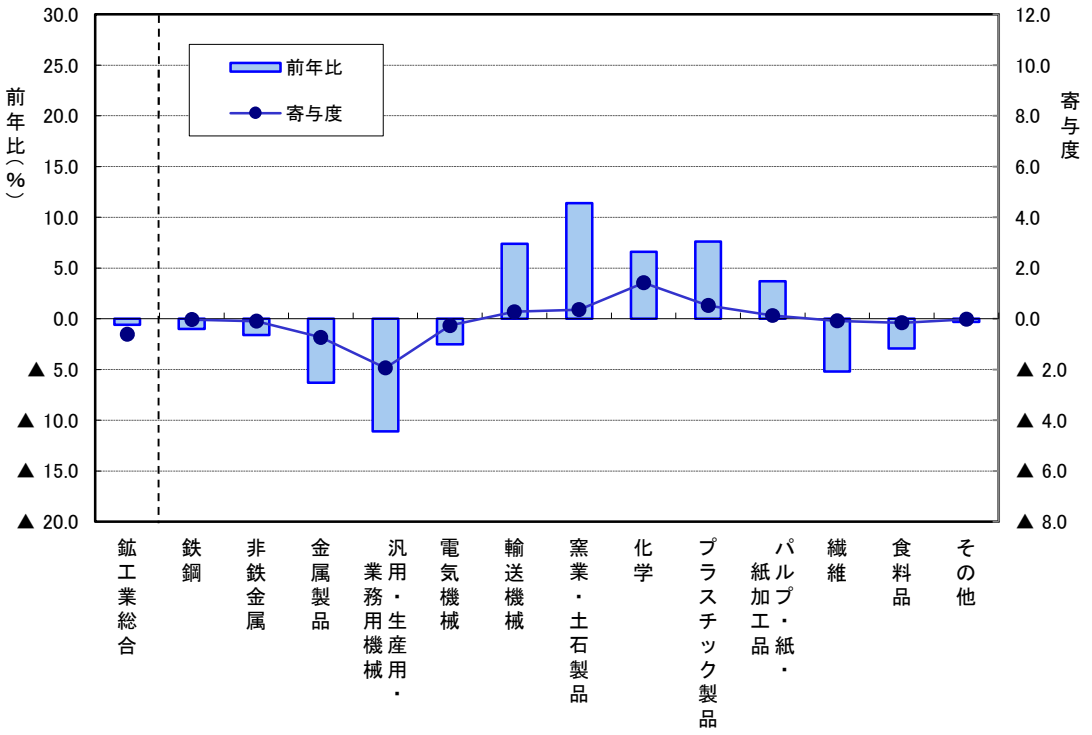


図6 生産指数(四半期季節調整済 令和2年=100)の推移

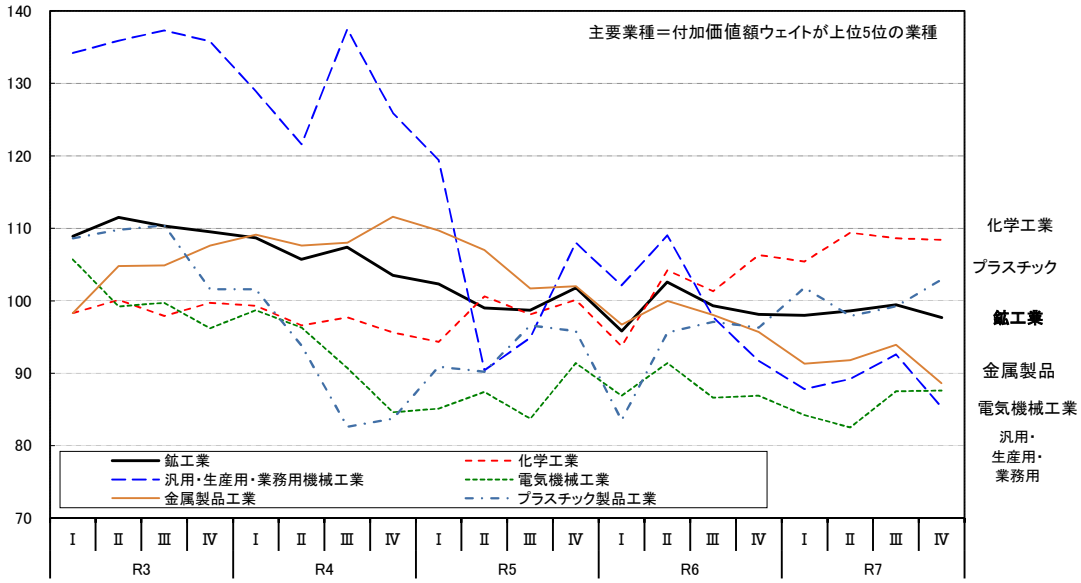
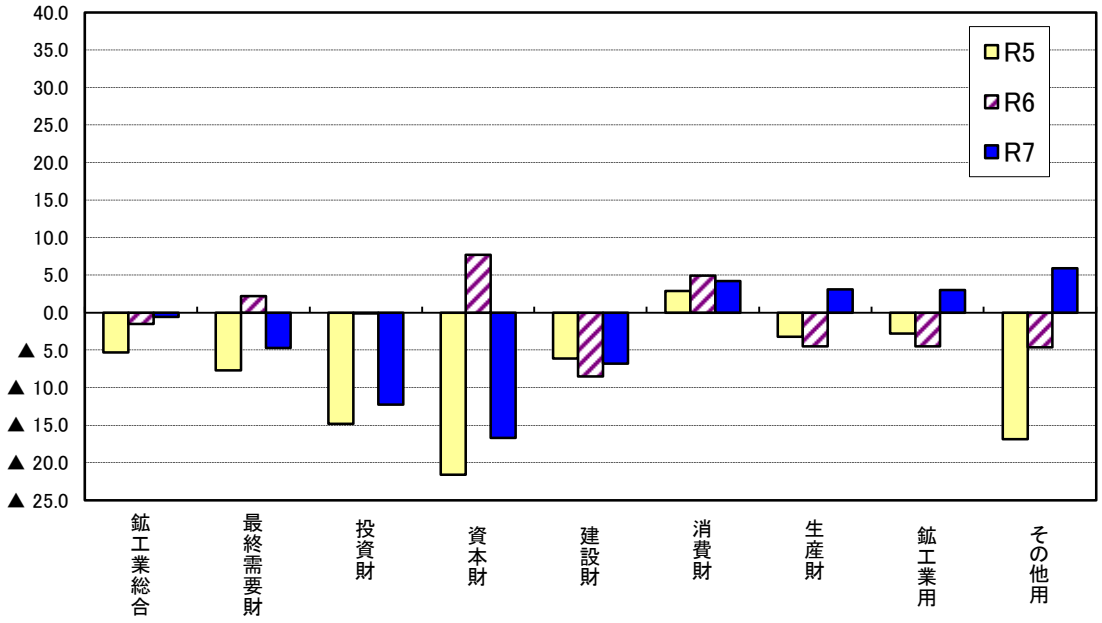


表4　生産指数　（財用途分類・年平均）　　令和2年=100

	ウェイト（万分比）	年平均指数（原指数） 6年	7年	前年比（%）	寄与度（%ポイント）
鉱　工　業	10000.0	99.1	98.5	▲ 0.6	▲ 0.61
最終需要財	4550.4	103.2	98.4	▲ 4.7	▲ 2.20
投資財	2536.9	99.4	87.2	▲ 12.3	▲ 3.12
資本財	1292.4	109.1	90.9	▲ 16.7	▲ 2.37
建設財	1244.5	89.3	83.2	▲ 6.8	▲ 0.77
消費財	2013.5	108.0	112.5	4.2	0.91
耐久消費財	22.1	137.3	128.9	▲ 6.1	▲ 0.02
非耐久消費財	1991.4	107.7	112.3	4.3	0.92
生産財	5449.6	95.7	98.7	3.1	1.65
鉱工業用生産財	5255.4	96.4	99.3	3.0	1.54
その他用生産財	194.2	76.1	80.6	5.9	0.09

前年比（%）　　図7　財用途別生産指数対前年比(原指数)の推移



（２）在庫動向　　―　在庫指数は上昇　―

令和７年の在庫指数（原指数）は、前年末比 4.8%の上昇で 105.6 となり、２年ぶりに上昇した。

四半期別季節調整済指数は、Ⅰ期は前期末比▲0.6%で 102.6、Ⅱ期は同 1.2%の上昇となり 103.8、Ⅲ期は同 0.7%の上昇で 104.5、Ⅳ期は同 2.5%の上昇となり 107.1 となった。

また原指数は、Ⅰ期 104.4（前年同期末比 0.9%）、Ⅱ期 105.2（同 1.7%）、Ⅲ期 103.7（同 3.7%）、Ⅳ期 105.6（同 4.8%）と４期連続で前年を上回った。

（図 8、表 5、図 9、図 10、統計表第 1-1、表統計表第 4 表）

年間指数を業種別にみると、製造工業 13 業種中、化学工業、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などの５業種が上昇し、汎用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、金属製品工業など８業種が低下した。

（表 6、図 11、表 7、図 12、図 13、詳細は「２　業種別動向」を参照）

年間指数の財用途別在庫指数（原指数）は、最終需要財が前年末比 4.0%の上昇で 116.7 となり、生産財が同 5.3%の上昇で 98.5 となったことにより、全体で同 4.8%の上昇で 105.6 となった。

最終需要財では、投資財（寄与度▲1.61）が同▲16.9%で 89.3 となったが、消費財（寄与度 3.34）が同 9.9%の上昇で 124.9 となり、全体で同 4.0%の上昇で 116.7 となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度 3.14）が同 5.8%の上昇で 99.1 となり、全体で同 5.3%の上昇で 98.5 となった。

（表 8、図 14、統計表第 2-2 表）

図8　鉱工業指数(四半期季節調整済 令和2年=100)

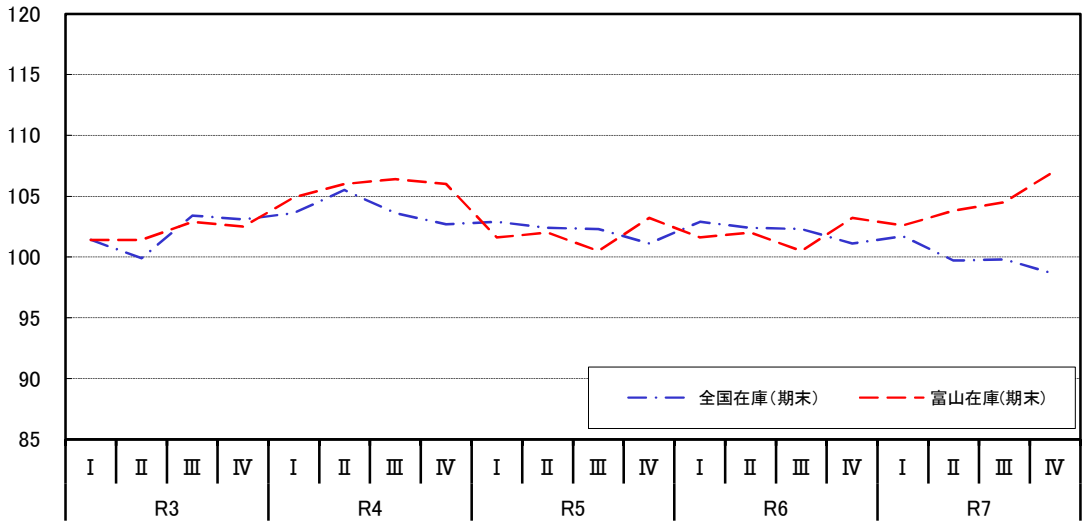


表5　鉱工業生産者製品在庫指数の推移　　令和2年=100

	富山			全国		
	指数 年(期)末	前年末比(%)	前期末比(%)	指数 年(期)末	前年末比(%)	前期末比(%)
暦年推移(原指数)						
令和3年	97.6	5.5	－	98.5	6.4	－
4年	99.7	2.2	－	101.2	2.7	－
5年	102.8	3.1	－	100.7	▲ 0.5	－
6年	100.8	▲ 1.9	－	98.8	▲ 1.9	－
7年	105.6	4.8	－	96.0	▲ 2.8	－
令和7年四半期別推移(季節調整済指数)						
Ⅰ 期	102.6	－	▲ 0.6	101.7	－	0.6
Ⅱ 期	103.8	－	1.2	99.7	－	▲ 2.0
Ⅲ 期	104.5	－	0.7	99.8	－	0.1
Ⅳ 期	107.1	－	2.5	98.6	－	▲ 1.2

注：全国指数は「経済産業省　鉱工業指数」から転載

図9　令和7年(2025年)在庫指数の動き

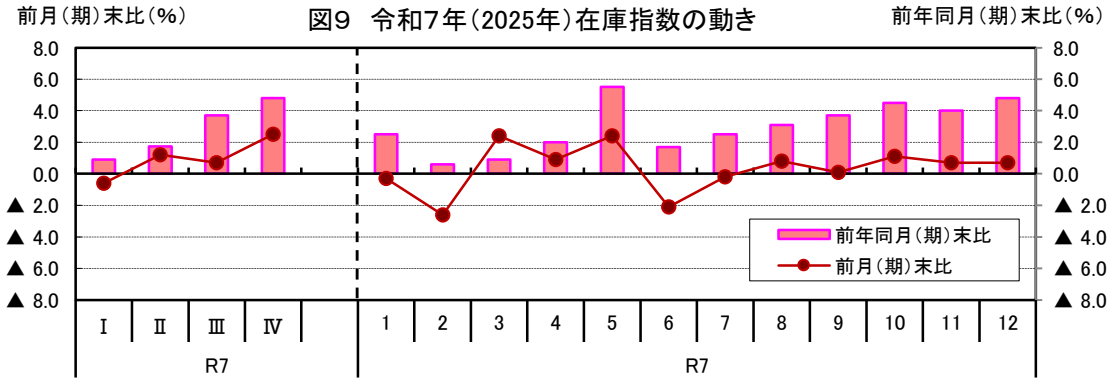


図10　在庫指数の推移(四半期)

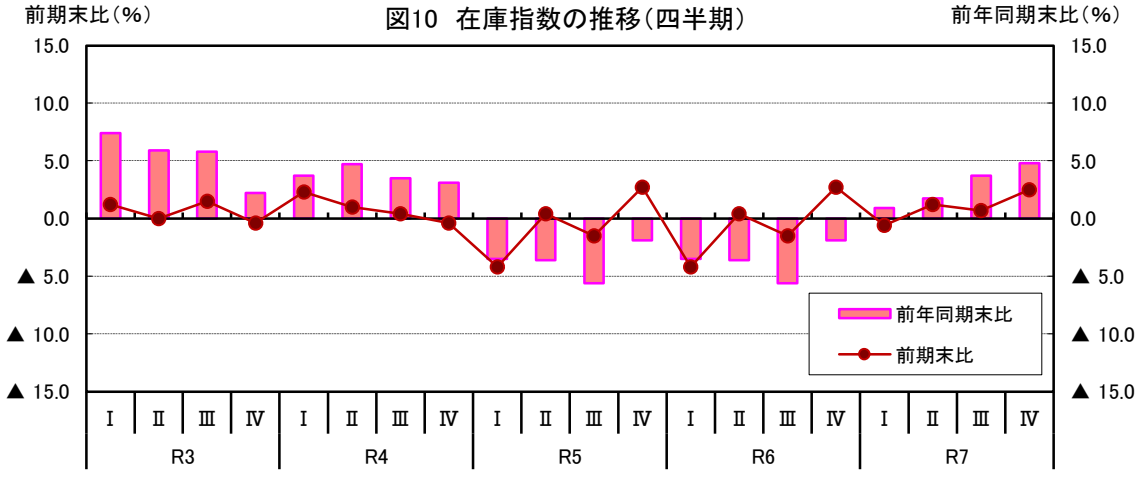


表6 在庫指数(年末)

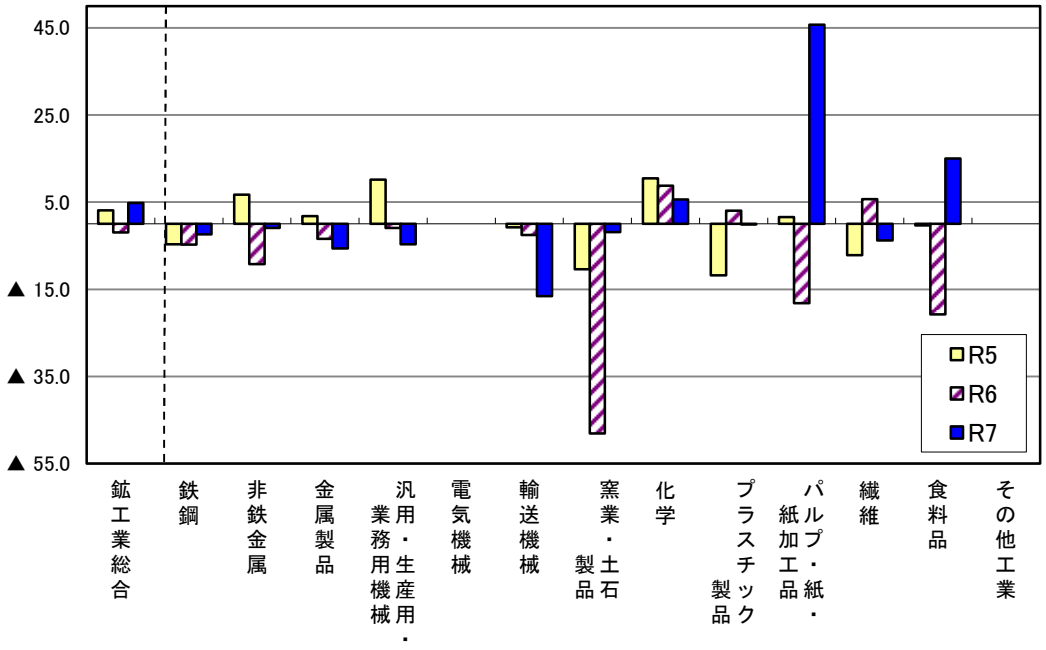
令和2年＝100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比	寄与度	全国(参考)
	ウェイト	令和6年	令和7年	(%)	(%ポイント)	ウェイト
鉱工業	10000.0	100.8	105.6	4.8	4.76	10000.0
製造工業	10000.0	100.8	105.6	4.8	4.76	9985.0
鉄鋼業	478.9	86.1	84.0	▲ 2.4	▲ 0.10	1209.0
非鉄金属工業	370.0	115.1	114.1	▲ 0.9	▲ 0.04	329.6
金属製品工業	477.6	99.0	93.5	▲ 5.6	▲ 0.26	469.3
汎用・生産用・業務用機械工業	1836.3	105.1	100.2	▲ 4.7	▲ 0.89	1270.3
電気機械工業	649.4	X	X	X	X	480.9
輸送機械工業	185.8	118.8	99.1	▲ 16.6	▲ 0.36	606.2
窯業・土石製品工業	221.4	47.8	46.9	▲ 1.9	▲ 0.02	440.2
化学工業	3557.6	115.4	121.9	5.6	2.29	1894.2
医薬品	1999.8	131.9	144.2	9.3	2.44	－
プラスチック製品工業	616.3	105.4	105.3	▲ 0.1	▲ 0.01	432.8
パルプ・紙・紙加工品工業	498.6	65.8	95.9	45.7	1.49	300.8
繊維工業	230.7	79.6	76.6	▲ 3.8	▲ 0.07	221.4
食料品工業	540.6	53.9	62.0	15.0	0.43	978.4
その他工業	336.8	X	X	X	X	577.0

※寄与度 ＝ $\dfrac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

前年比(%)

図11　業種別在庫指数対前年比(原指数)の推移



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

表7　業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業　　種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	2.29	医薬品	プラスチック
	電気機械工業	X		
	パルプ・紙・紙加工品工業	1.49	紙加工品	－
	食料品工業	0.43	その他の食料品	
	その他工業	X		
低下業種	プラスチック製品工業	▲ 0.01		日用品雑貨・雑貨
	窯業・土石製品工業	▲ 0.02	セメント製品	
	非鉄金属工業	▲ 0.04		
	繊維工業	▲ 0.07	化繊・紡績	衣類
	鉄鋼業	▲ 0.10	－	素製品(鋼半製品含)
	金属製品工業	▲ 0.26		建築用金属製品
	輸送機械工業	▲ 0.36	－	自動車部品
	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 0.89		

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「－」は該当品目がない項目です。

図12　業種別在庫指数前年末比と寄与度

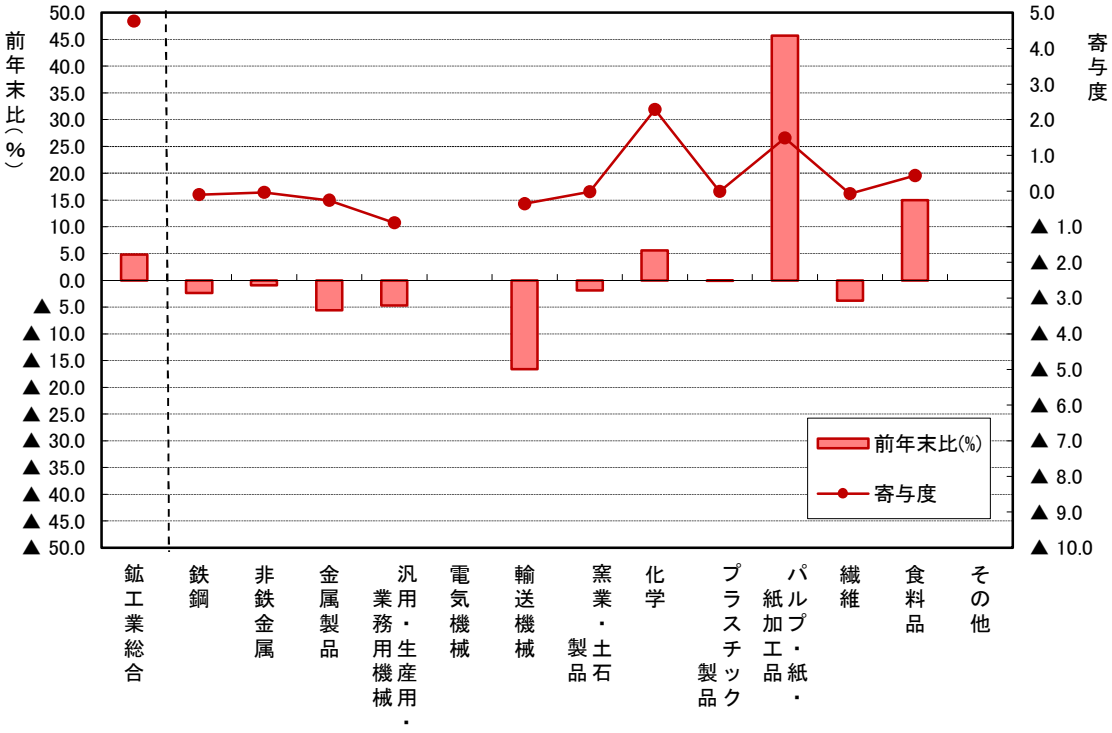


図13 在庫指数(四半期季節調整済 令和2年=100)の推移

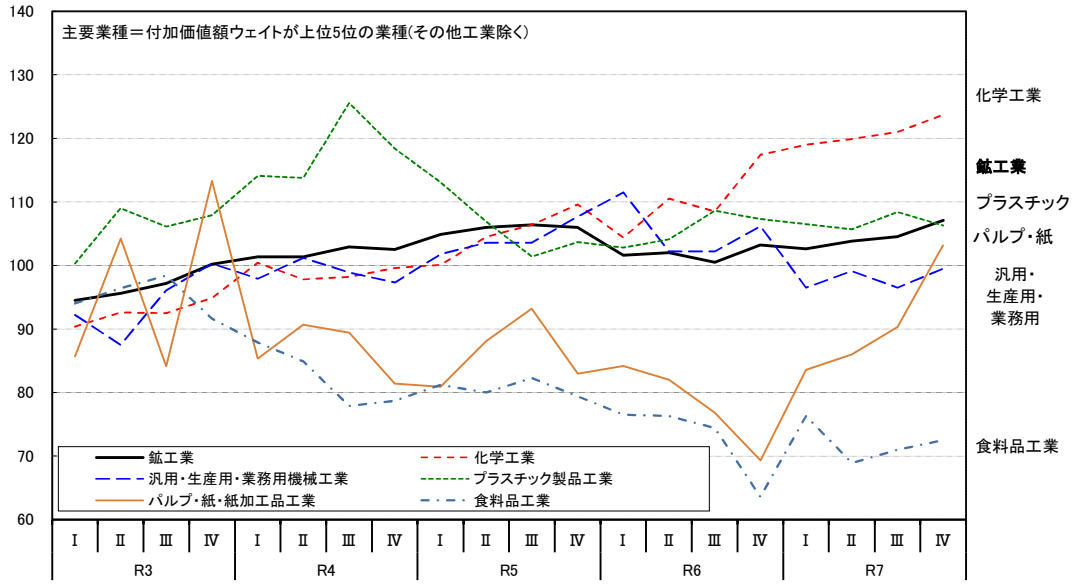
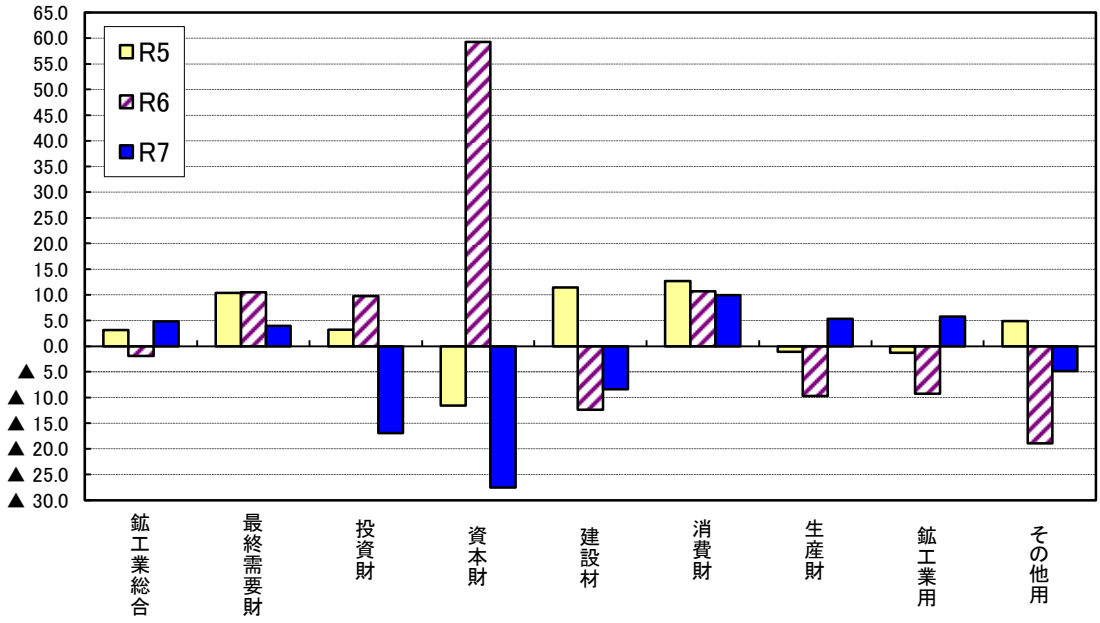


表8　在庫指数(財用途分類・年末)　　令和2年=100

	ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比	寄与度
	(万分比)	6年	7年	(%)	(%ポイント)
鉱　工　業	10000.0	100.8	105.6	4.8	4.76
最終需要財	3873.1	112.2	116.7	4.0	1.73
投資財	890.8	107.5	89.3	▲ 16.9	▲ 1.61
資本財	316.6	135.4	98.1	▲ 27.5	▲ 1.17
建設財	574.2	92.2	84.5	▲ 8.4	▲ 0.44
消費財	2982.3	113.6	124.9	9.9	3.34
耐久消費財	118.8	X	X	X	X
非耐久消費財	2863.5	X	X	X	X
生産財	6126.9	93.5	98.5	5.3	3.04
鉱工業用生産財	5862.0	93.7	99.1	5.8	3.14
その他用生産財	264.9	88.3	84.1	▲ 4.8	▲ 0.11

前年比(%)　　図14　財用途別在庫指数対前年比(原指数)の推移



（３）在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、令和４年Ⅰ期からⅢ期は「在庫積み上がり局面」に位置したが、令和４年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。令和５年Ⅰ期からⅢ期は引き続き「在庫調整局面」に位置したが、令和５年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」へ移動している。令和６年Ⅰ期は「在庫調整局面」へ移動し、令和６年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。令和６年Ⅲ期は「在庫減少局面」へ移動し、令和６年Ⅳ期は再度「在庫調整局面」へ移動している。令和７年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和７年Ⅱ期は「在庫調整局面」へ移動した。令和７年Ⅲ期、Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、令和４年Ⅰ期から令和４年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」に位置した。令和５年Ⅰ期、Ⅱ期は引き続き「在庫積み上がり局面」に位置したが、令和５年Ⅲ期、Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動している。令和６年Ⅰ期から令和６年Ⅲ期は引き続き「在庫調整局面」に位置し、令和６年Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動している。令和７年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、令和７年Ⅱ期から令和７年Ⅳ期は再度「在庫減少局面」へ移動した。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の４局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ 40 ヵ月（3～4 年）の循環を示すことが多く、「キチンの波」（キチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の４局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（**意図せざる在庫投資**、図 c1,c2）。

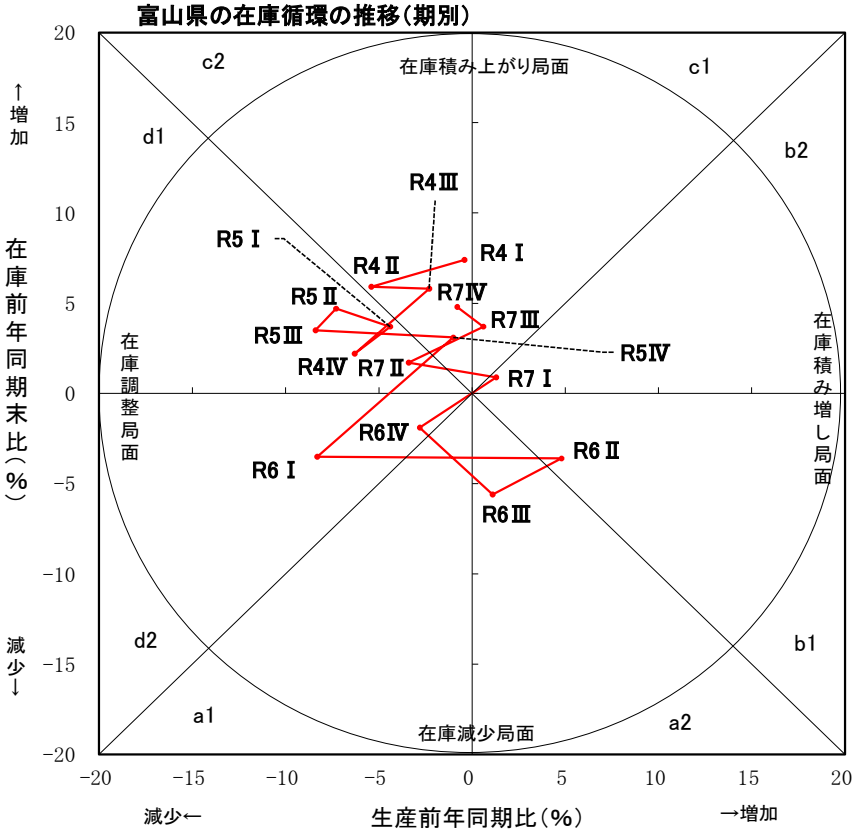
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

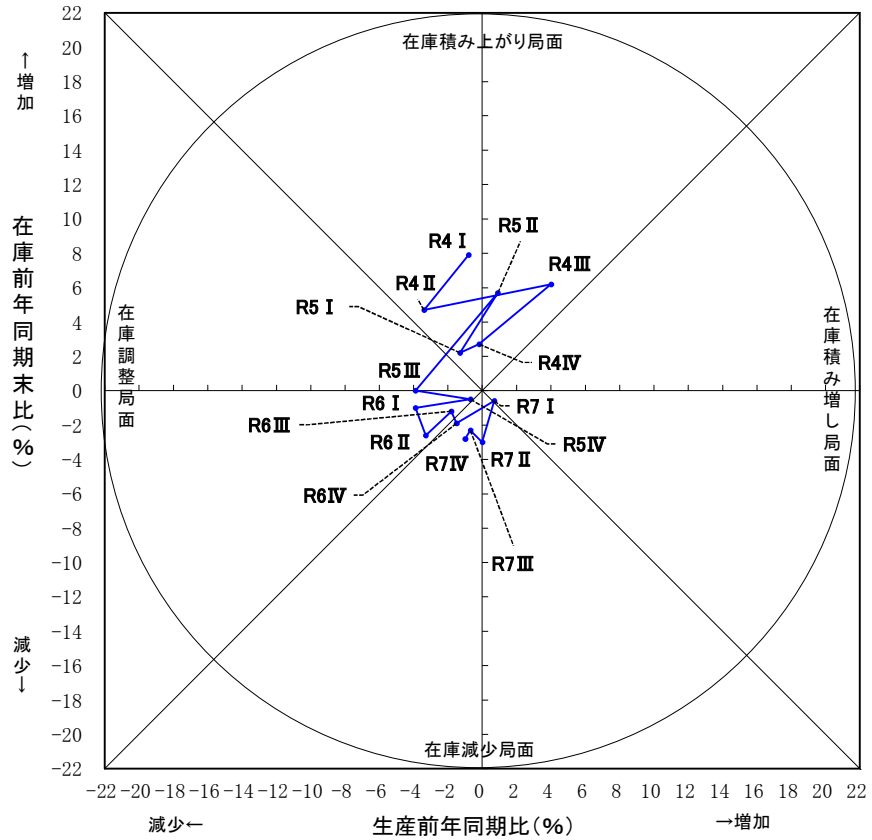
「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（**意図せざる在庫減局面**、図 a1,a2）。

富山県の在庫循環の推移（期別）



全国の在庫循環の推移（期別）



２ 業種別動向

（１） 鉄鋼業

① 概　況

生産指数は前年比▲1.0%（寄与度▲0.03）で 86.5 となり、４年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲2.4%（寄与度▲0.10）で 84.0 となり、３年連続で低下した。

（図 1、図 2、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図1　鉄鋼業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

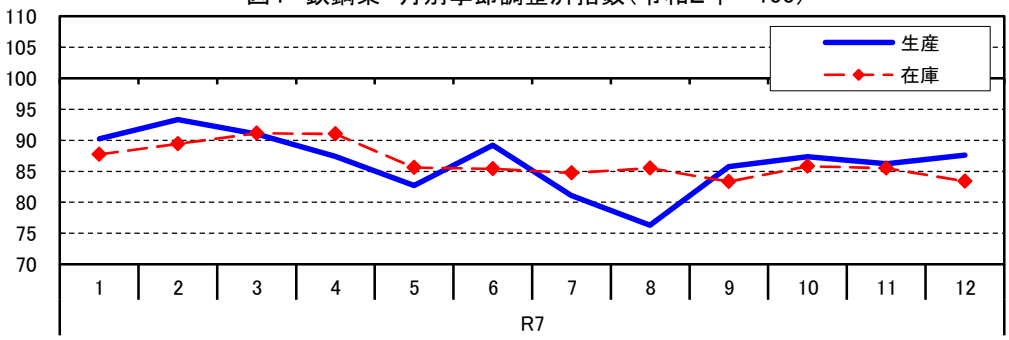
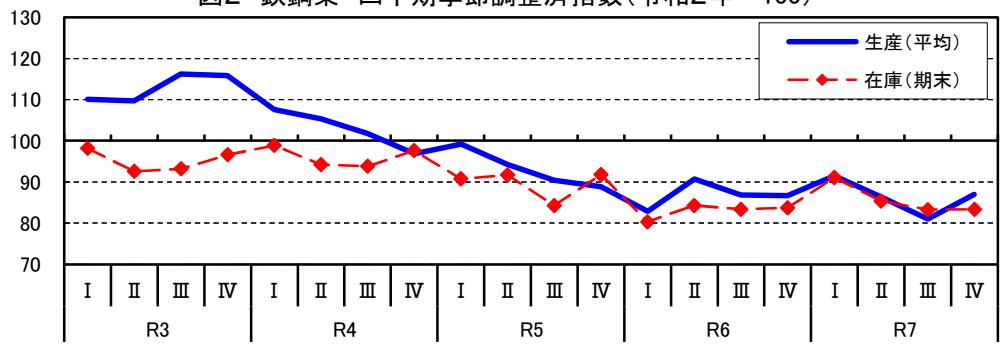


図2　鉄鋼業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

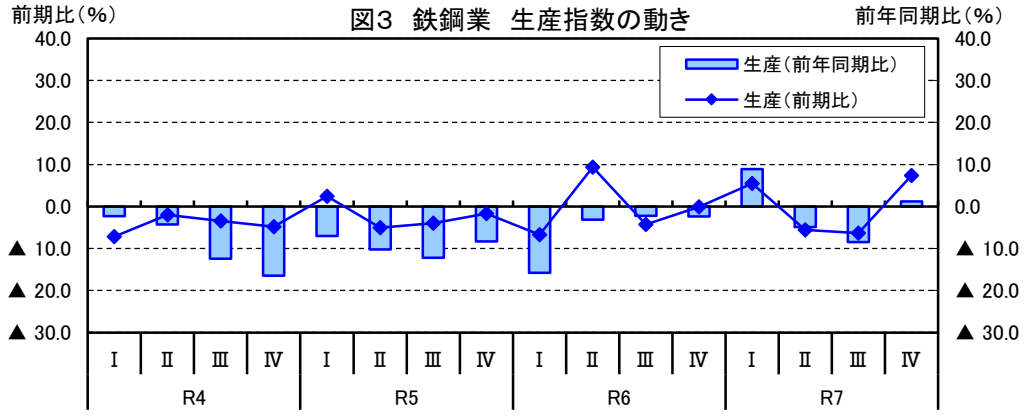


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 5.5%の上昇で 91.5 となったが、Ⅱ期は同▲5.6%で 86.4、Ⅲ期は同▲6.3%で 81.0 と２期連続で低下し、Ⅳ期は同 7.4%の上昇で 87.0 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 87.3（前年同期比 8.9%）と 13 期ぶりに前年を上回ったが、Ⅱ期 88.7（同▲4.9%）、Ⅲ期 79.8（同▲8.5%）と２期連続で前年を下回り、Ⅳ期 90.1（同 1.2%）となった。

（図 3、統計表第 3 表）

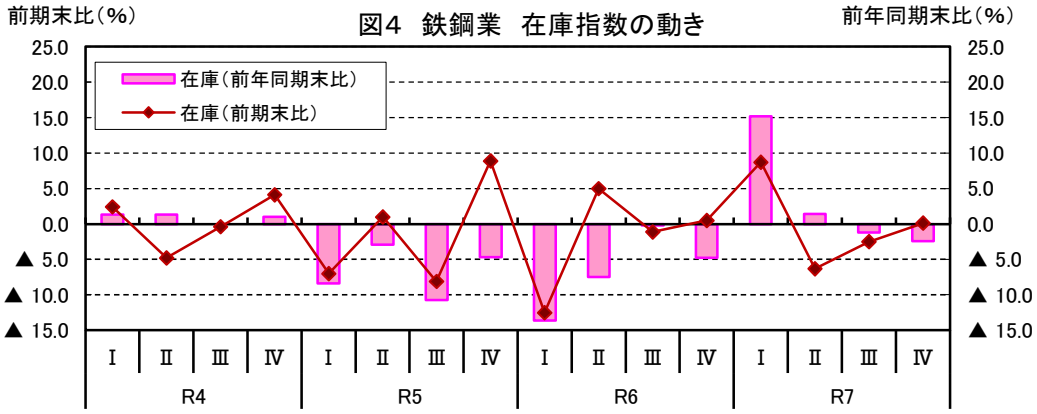


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 8.7%の上昇で 91.1 と令和６年Ⅳ期以降２期連続で上昇し、Ⅱ期は同▲6.3%で 85.4、Ⅲ期は同▲2.5%で 83.3 と２期連続で低下したが、Ⅳ期は同 0.1%の上昇で 83.4 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 92.7（前年同期末比 15.2%）と９期ぶりに前年を上回り、Ⅱ期 86.5（同 1.4%）と２期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期 80.3（同▲1.2%）、Ⅳ期 84.0（同▲2.4%）と２期連続で前年を下回った。

（図 4、統計表第 4 表）



（２）非鉄金属工業

① 概　況

生産指数は前年比▲1.6%（寄与度▲0.10）で 100.9 となり、４年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲0.9%（寄与度▲0.04）で 114.1 となり、２年連続で低下した。

（図 5、図 6、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図5　非鉄金属工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

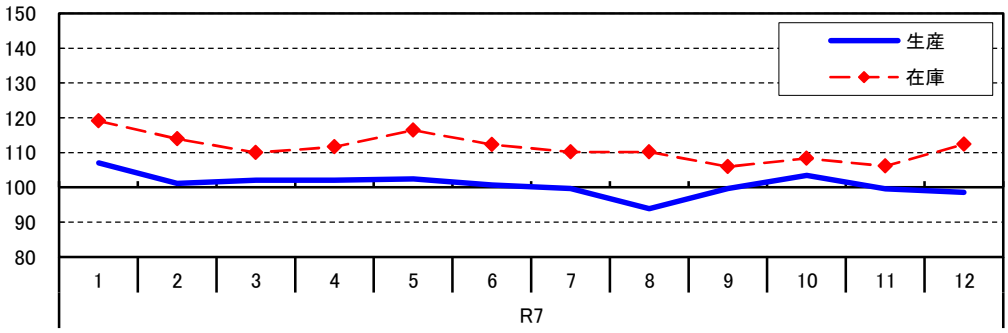
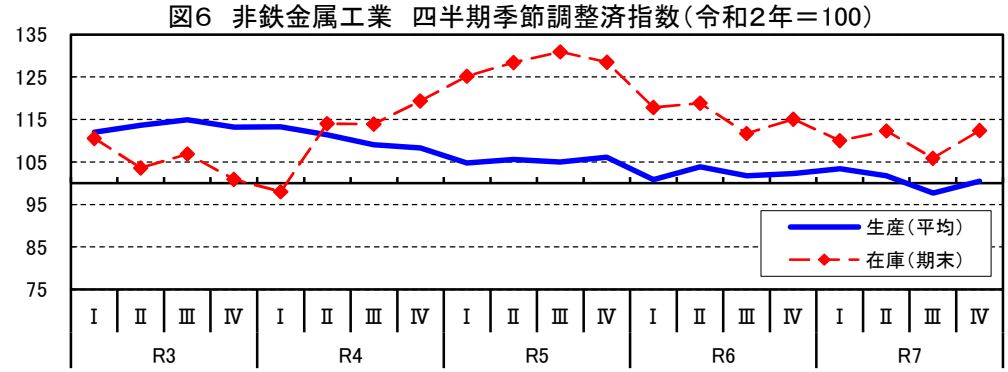


図6　非鉄金属工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

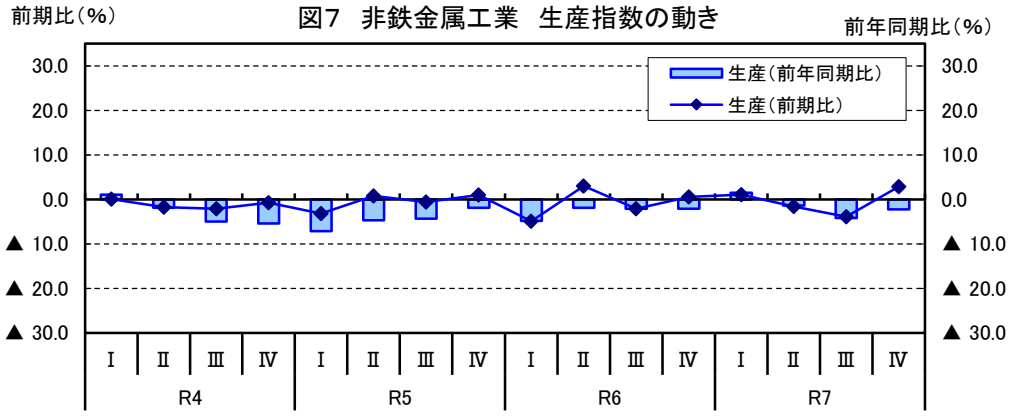


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 1.1%の上昇で 103.4、Ⅱ期は同▲1.6%で 101.7 となり、Ⅲ期は同▲3.9%で 97.7 と２期連続で低下したが、Ⅳ期は同 2.9%の上昇で 100.5 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 100.0（前年同期比 1.5%）と 12 期ぶりに前年を上回ったが、Ⅱ期 102.2（同▲1.4%）、Ⅲ期 97.0（同▲4.2%）、Ⅳ期 104.4（同▲2.2%）と３期連続で前年を下回った。

（図 7、統計表第 3 表）

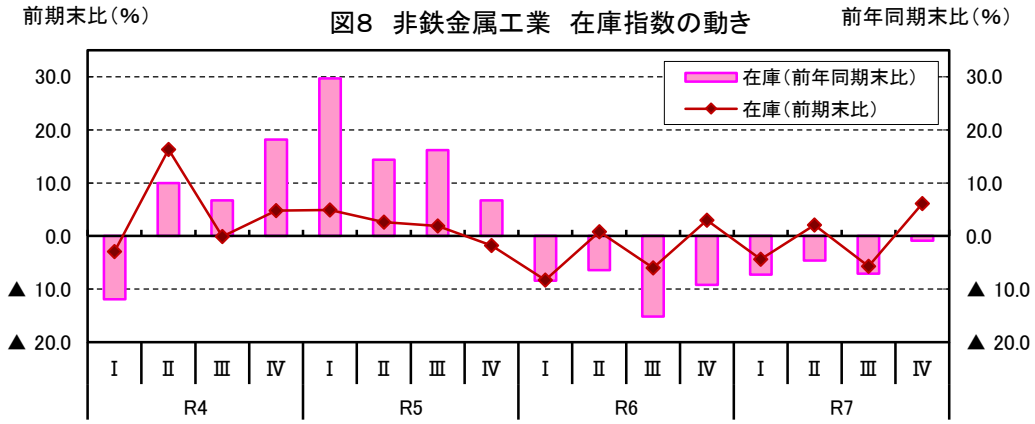


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲4.4%で 110.0、Ⅱ期は同 2.1%の上昇で 112.3、Ⅲ期は同▲5.7%で 105.9、Ⅳ期は同 6.1%の上昇で 112.4 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 111.2（前年同期末比▲7.3%）、Ⅱ期 116.3（同▲4.6%）、Ⅲ期 106.7（同▲7.1%）、Ⅳ期 114.1（同▲0.9%）と令和６年Ⅰ期以降８期連続で前年を下回った。

（図 8、統計表第 4 表）



（３）金属製品工業

①　概　況

生産指数は前年比▲6.3%（寄与度▲0.73）で 91.5 となり、３年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲5.6%（寄与度▲0.26）で 93.5 となり、２年連続で低下した。

（図 9、図 10、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図9　金属製品工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

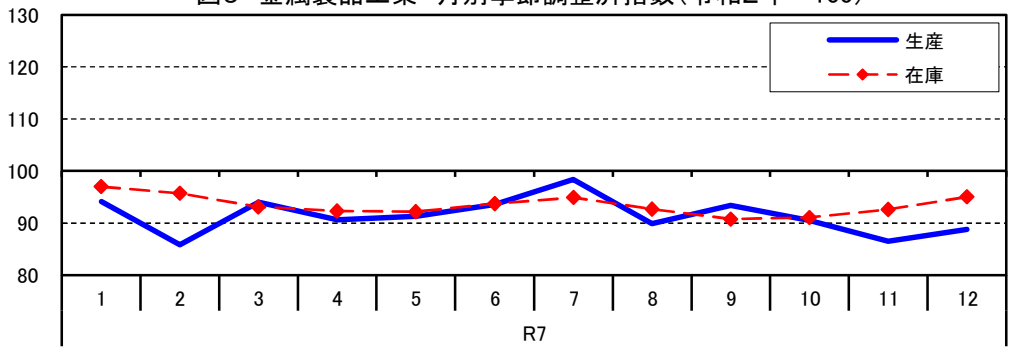
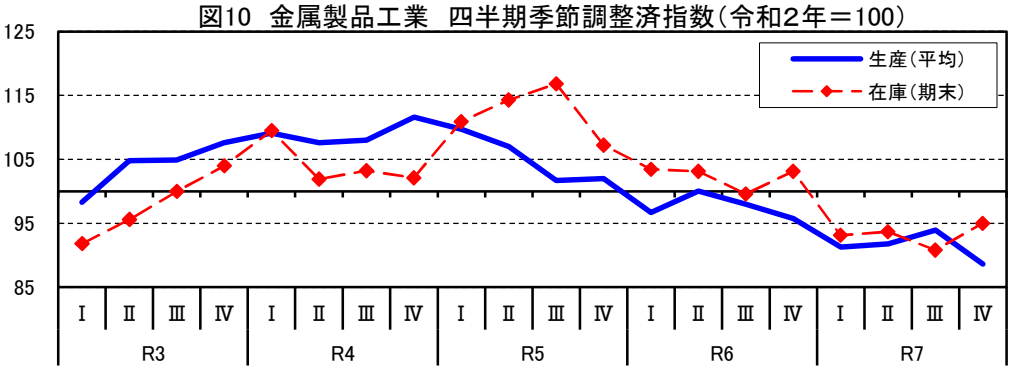


図10　金属製品工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

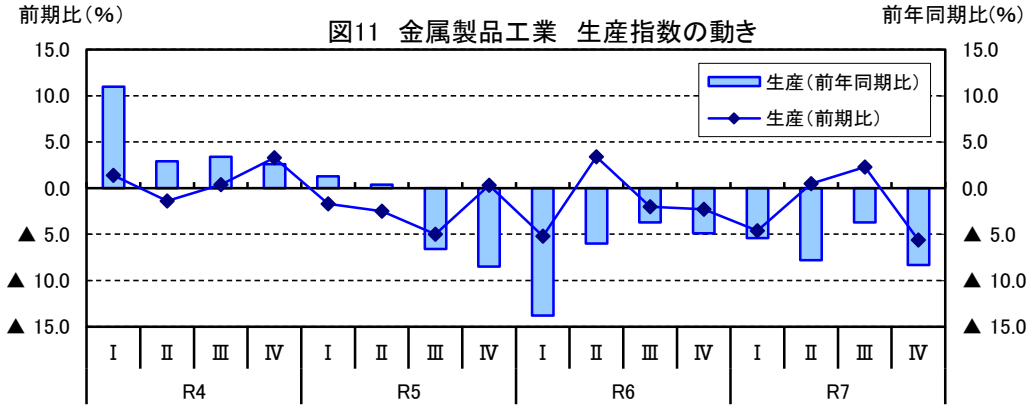


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲4.6%で 91.3 と令和６年Ⅲ期以降３期連続で低下し、Ⅱ期は同 0.5%の上昇で 91.8、Ⅲ期は同 2.3%の上昇で 93.9 と２期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲5.6%で 88.6 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 88.3（前年同期比▲5.4%）、Ⅱ期 93.0（同▲7.8%）、Ⅲ期 92.0（同▲3.7%）、Ⅳ期 92.7（同▲8.3%）と令和５年Ⅲ期以降 10 期連続で前年を下回った。

（図 11、統計表第３表）

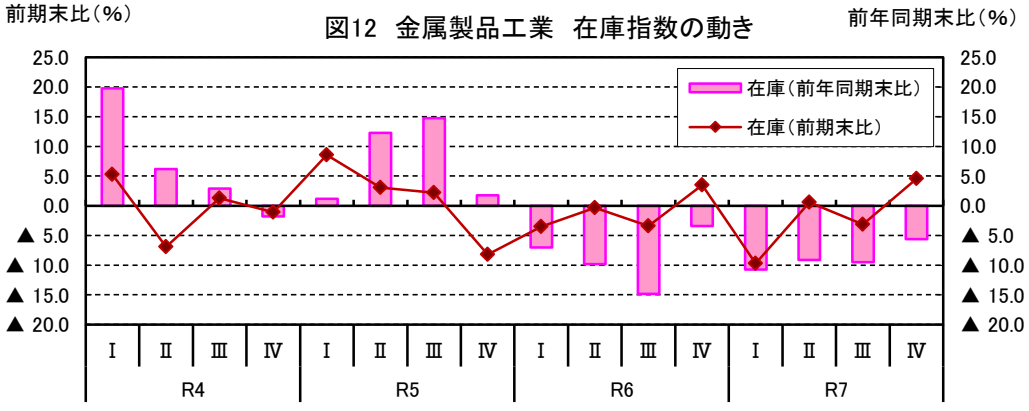


② 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲9.7%で 93.1、Ⅱ期は同 0.6%の上昇で 93.7、Ⅲ期は同▲3.1%で 90.8、Ⅳ期は同 4.6%の上昇で 95.0 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 95.5（前年同期末比▲10.7%）、Ⅱ期 96.7（同▲9.1%）、Ⅲ期 89.9（同▲9.5%）、Ⅳ期 93.5（同▲5.6%）と令和６年Ⅰ期以降８期連続で前年を下回った。

（図 12、統計表第４表）



（４）汎用・生産用・業務用機械工業

① 概　況

生産指数は前年比▲11.1%（寄与度▲1.94）で 88.9 となり、４年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲4.7%（寄与度▲0.89）で 100.2 となり、２年連続で低下した。

（図 13、図 14、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図13　汎用・生産用・業務用機械工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

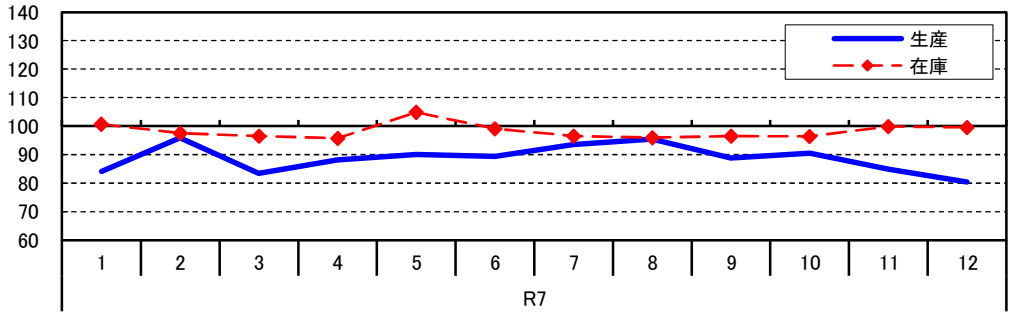
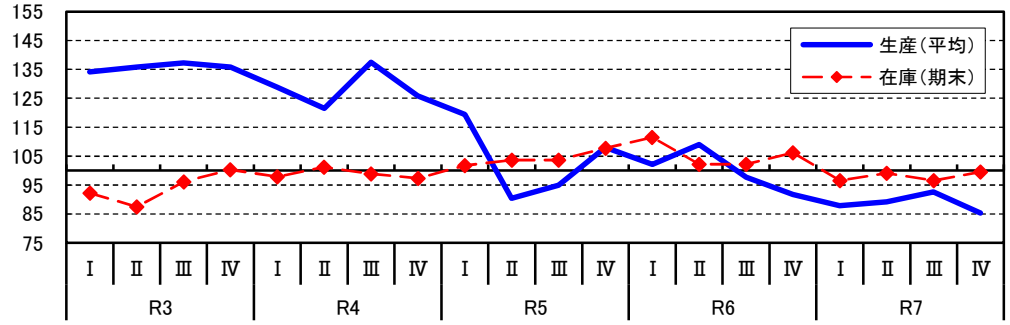


図14　汎用・生産用・業務用機械工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



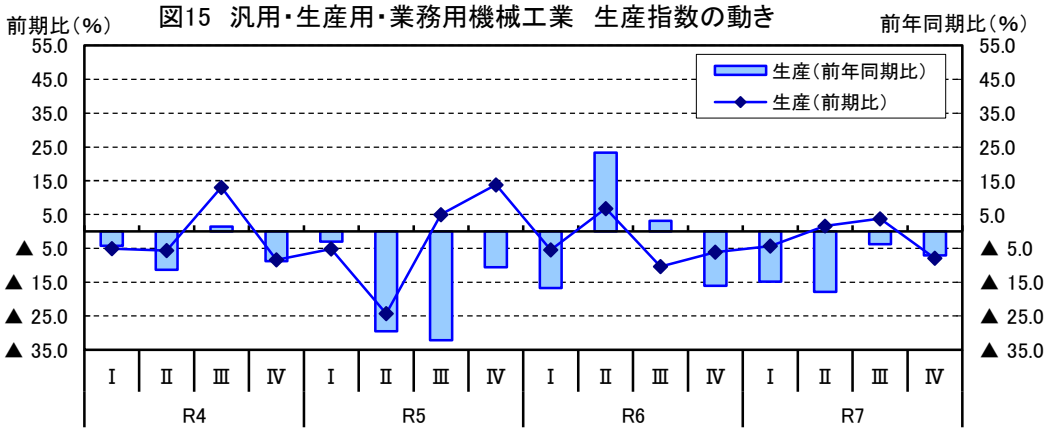
② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲4.3%で 87.8 と令和６年Ⅲ期以降３期連続で低下し、Ⅱ期は同 1.6%の上昇で 89.2、Ⅲ期は同 3.8%の上昇で 92.6 と２期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲7.9%で 85.3 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 91.3（前年同期比▲14.8%）、Ⅱ期 84.9（同▲17.9%）、Ⅲ期 92.7（同▲3.8%）、Ⅳ期 86.5（同▲7.1%）と令和６年Ⅳ期以降５期連続で前年を下回った。

（図 15、統計表第３表）

図15　汎用・生産用・業務用機械工業　生産指数の動き



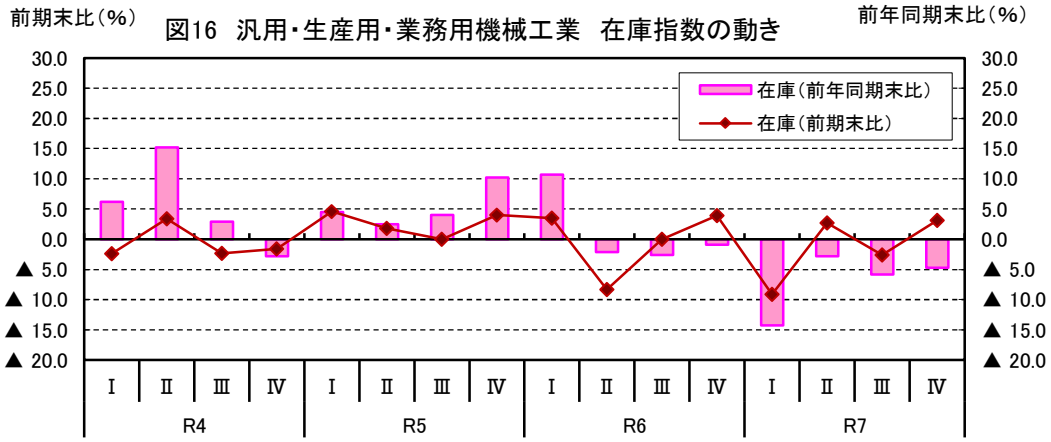
③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲9.1%で 96.5、Ⅱ期は同 2.7%の上昇で 99.1、Ⅲ期は同▲2.6%で 96.5、Ⅳ期は同 3.1%の上昇で 99.5 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 99.8（前年同期末比▲14.3%）、Ⅱ期 99.6（同▲2.8%）、Ⅲ期 92.9（同▲5.8%）、Ⅳ期 100.2（同▲4.7%）と令和６年Ⅱ期以降７期連続で前年を下回った。

（図 16、統計表第４表）

図16　汎用・生産用・業務用機械工業　在庫指数の動き



（５）電気機械工業

① 概　況

生産指数は前年比▲2.5%（寄与度▲0.27）で 85.7 となり、２年ぶりに低下した。

在庫指数は３年ぶりに上昇した。（指数値は秘匿のため非公表）

（図 17、図 18、統計表第 3 表）

図17　電気機械工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

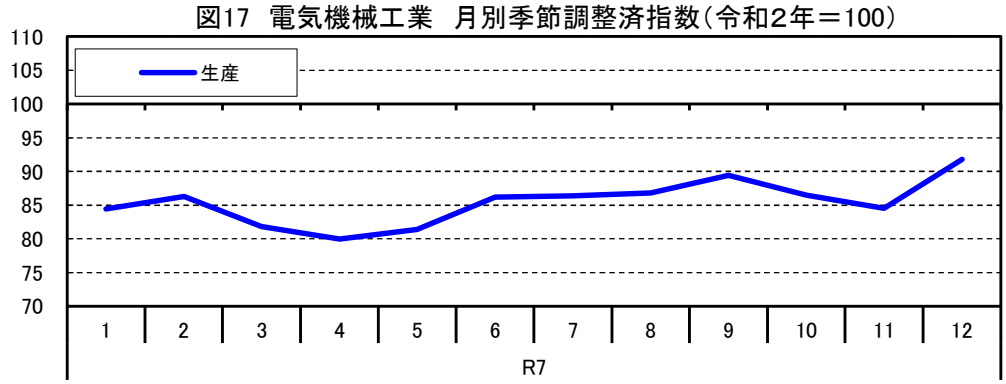
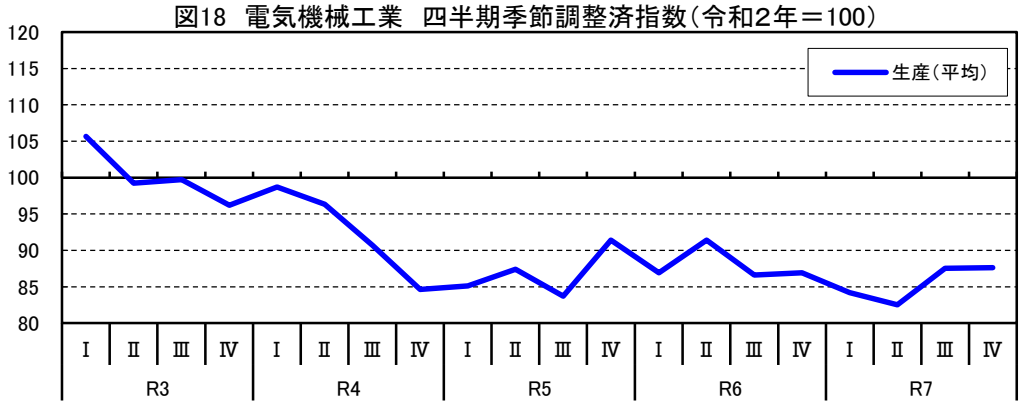


図18　電気機械工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



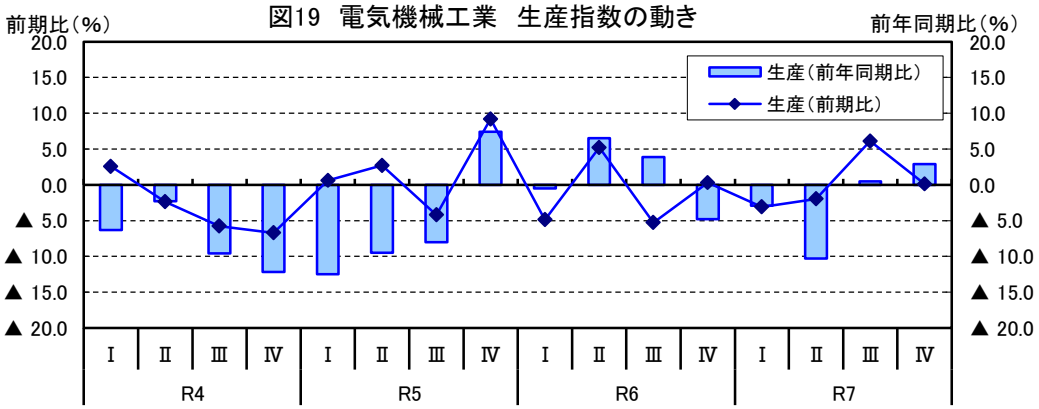
② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲3.1%で 84.2、Ⅱ期は同▲2.0%で 82.5 と２期連続で低下したが、Ⅲ期は同 6.1%の上昇で 87.5、Ⅳ期は同 0.1%の上昇で 87.6 と２期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 81.1（前年同期比▲2.9%）、Ⅱ期 79.3（同▲10.3%）と令和６年Ⅳ期以降３期連続で前年を下回り、Ⅲ期 89.1（同 0.5%）、Ⅳ期 93.5（同 2.9%）と２期連続で前年を上回った。。

（図 19、統計表第３表）

図19　電気機械工業　生産指数の動き



③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、４期連続で上昇した。

また、原指数は、令和７年Ⅰ期に７期ぶりに前年を上回り、以降４期連続で前年を上回った。

（６）輸送機械工業

① 概　況

生産指数は前年比 7.4%（寄与度 0.28）で 149.6 となり、３年連続で上昇した。

在庫指数は前年末比▲16.6%（寄与度▲0.36）で 99.1 となり、３年連続で低下した。

（図 20、図 21、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図20　輸送機械工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

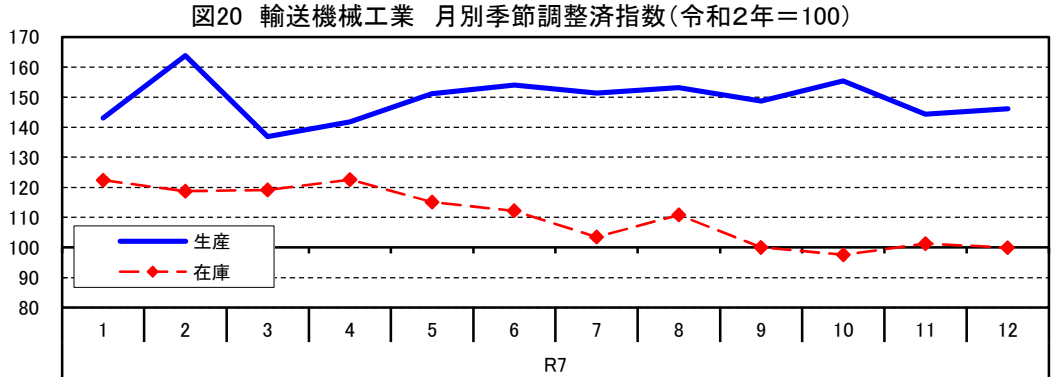
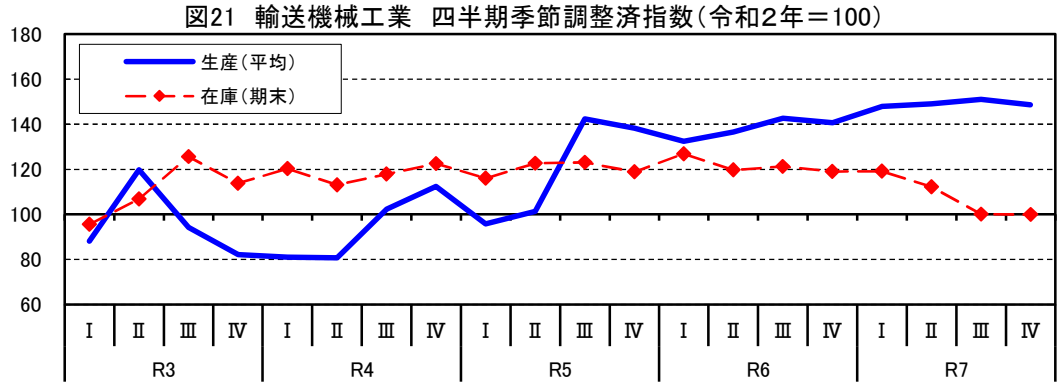


図21　輸送機械工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



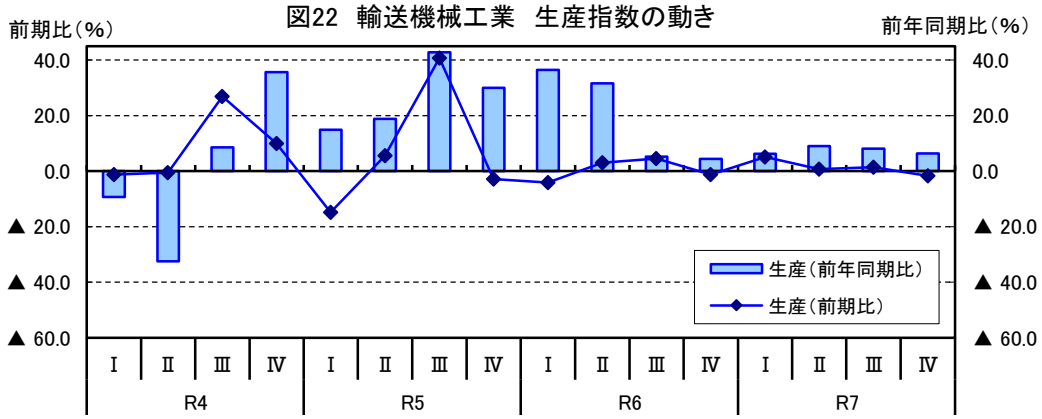
② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 5.1%の上昇で 147.9、Ⅱ期は同 0.7%の上昇で 149.0、Ⅲ期は同 1.4%の上昇で 151.1 と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲1.7%で 148.6 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 146.5（前年同期比 6.2%）、Ⅱ期 133.0（同 9.0%）、Ⅲ期 155.5（同 8.1%）、Ⅳ期 163.2（同 6.4%）と令和 4 年Ⅲ期以降 14 期連続で前年を上回った。

（図 22、統計表第 3 表）

図22　輸送機械工業　生産指数の動き



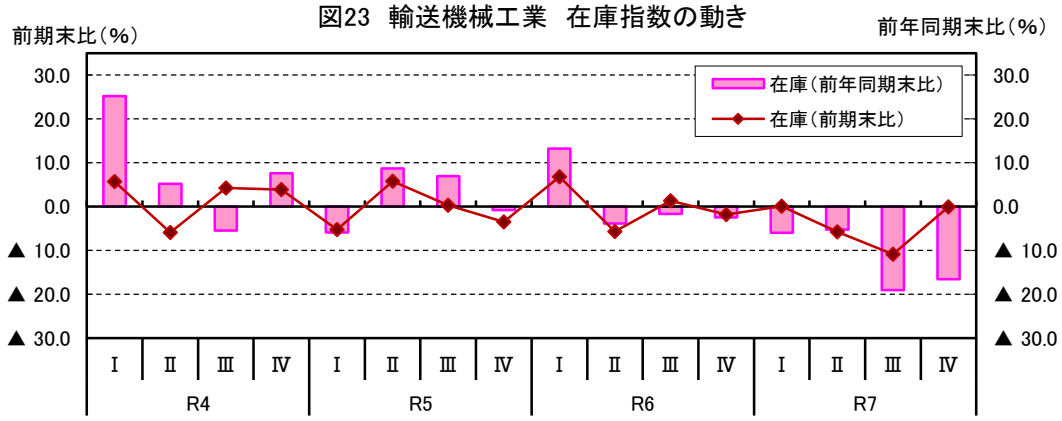
③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 0.1%の上昇で 119.1 となり、Ⅱ期は同▲5.8%で 112.2、Ⅲ期は同▲10.9%で 100.0、Ⅳ期は同▲0.1%で 99.9 と 3 期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 121.0（前年同期末比▲6.0%）、Ⅱ期 108.9（同▲5.3%）、Ⅲ期 101.4（同▲19.1%）、Ⅳ期 99.1（同▲16.6%）と令和 6 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を下回った。

（図 23、統計表第 4 表）

図23　輸送機械工業　在庫指数の動き



（７）窯業・土石製品工業

① 概　況

生産指数は前年比 11.4%（寄与度 0.36）で 116.6 となり、３年ぶりに上昇した。

在庫指数は前年末比▲1.9%（寄与度▲0.02）で 46.9 となり、３年連続で低下した。

（図 24、図 25、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図24　窯業･土石製品工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

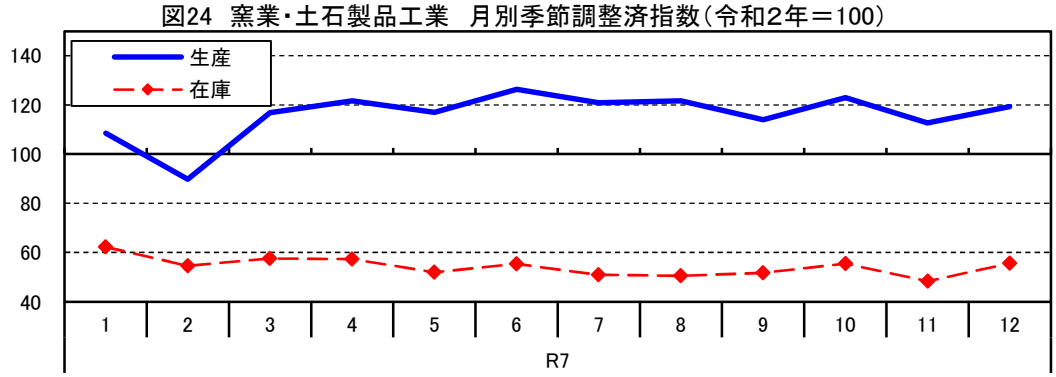
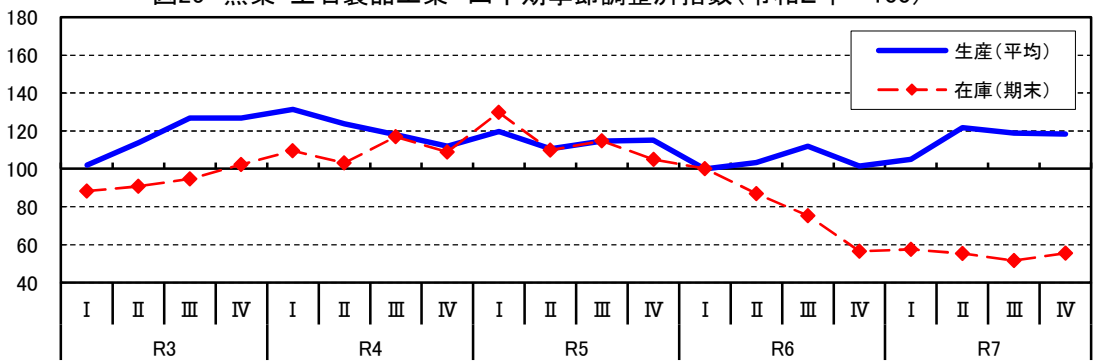


図25　窯業･土石製品工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

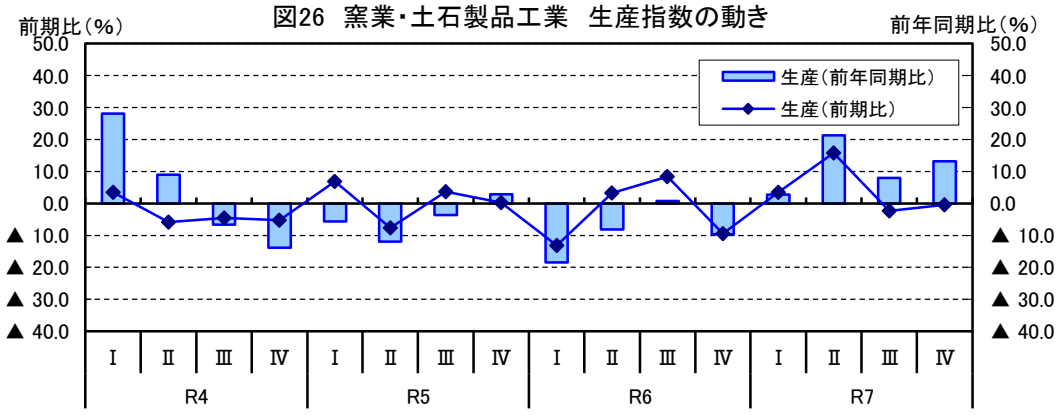


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 3.5%の上昇で 105.1、Ⅱ期は同 15.8%の上昇で 121.7 と２期連続で上昇したが、Ⅲ期は同▲2.3%で 118.9、Ⅳ期は同▲0.4%で 118.4 と２期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 94.9（前年同期比 2.8%）、Ⅱ期 120.8（同 21.3%）、Ⅲ期 122.5（同 8.0%）、Ⅳ期 128.4（同 13.2%）と４期連続で前年を上回った。

（図 26、統計表第３表）

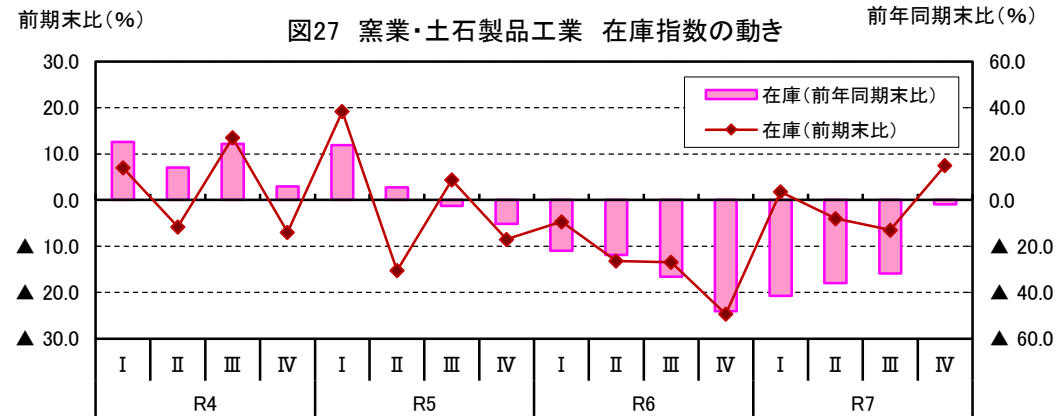


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 1.8%の上昇で 57.6 と６期ぶりに上昇し、Ⅱ期は同▲4.0%で 55.3、Ⅲ期は同▲6.5%で 51.7 と２期連続で低下したが、Ⅳ期は同 7.5%で 55.6 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 62.3（前年同期末比▲41.4%）、Ⅱ期 51.3（同▲36.0%）、Ⅲ期 53.8（同▲31.8%）、Ⅳ期 46.9（同▲1.9%）と令和５年Ⅲ期以降 10 期連続で前年を下回った。

（図 27、統計表第４表）



（８）化学工業

① 概　況

生産指数は前年比 6.6%（寄与度 1.42）で 108.1 となり、３年連続で上昇した。

在庫指数は前年末比 5.6%（寄与度 2.29）で 121.9 となり、４年連続で上昇した。

（図 28、図 29、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図28　化学工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

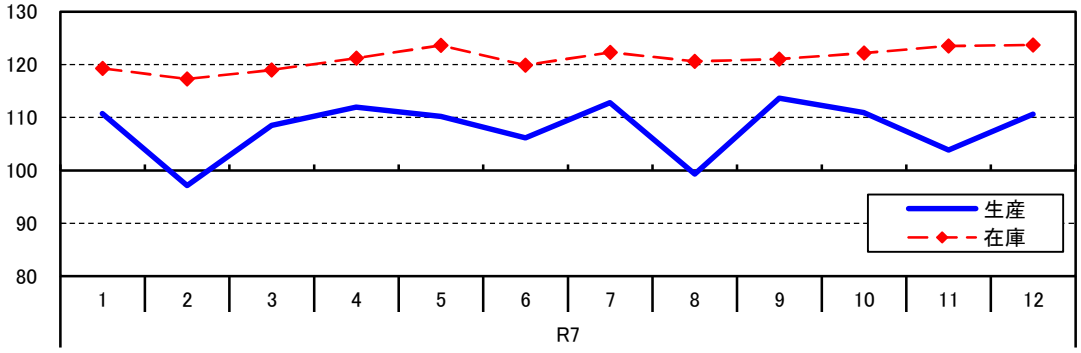
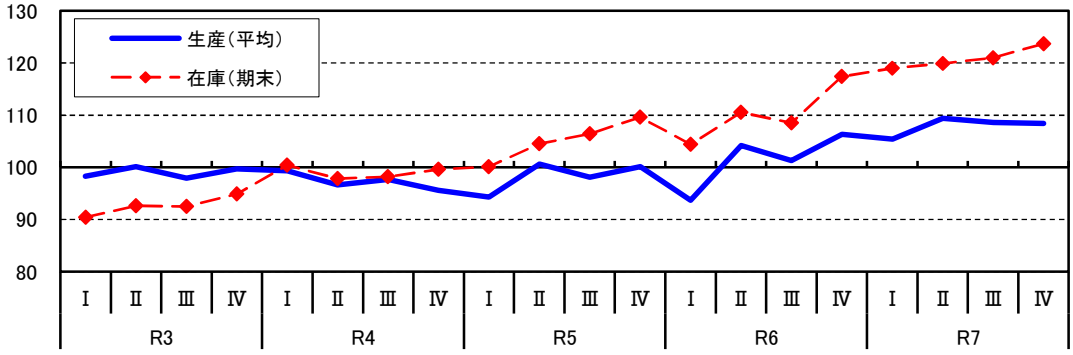


図29　化学工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

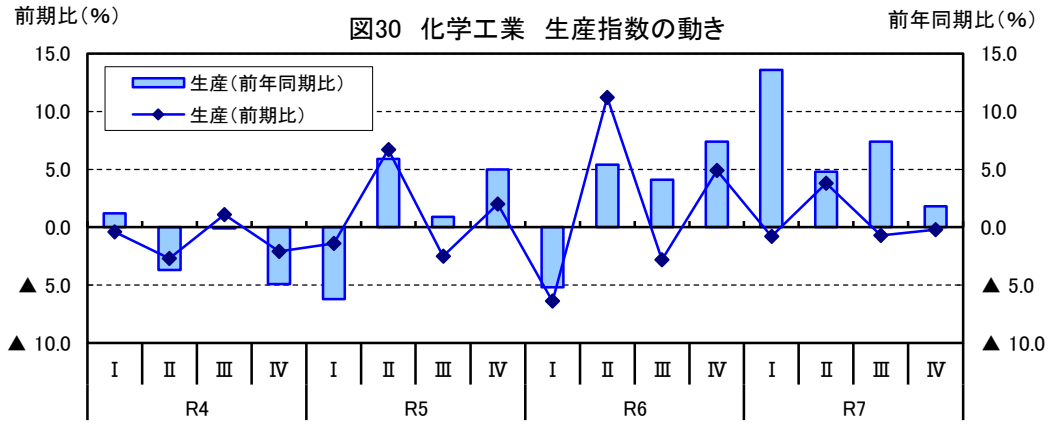


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比▲0.8%で 105.4 となり、Ⅱ期は同 3.8%の上昇で 109.4 となったが、Ⅲ期は同▲0.7%で 108.6、Ⅳ期は同▲0.2%で 108.4 と２期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 105.5（前年同期比 13.6%）、Ⅱ期 111.8（同 4.8%）、Ⅲ期 103.3（同 7.4%）、Ⅳ期 111.9（同 1.8%）と令和６年Ⅱ期以降７期連続で前年を上回った。

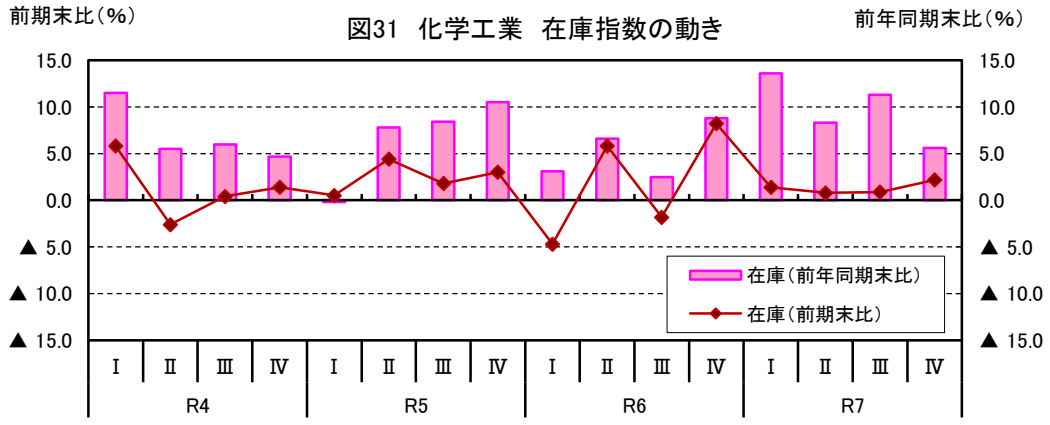
（図 30、統計表第３表）



③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 1.4%の上昇で 119.0、Ⅱ期は同 0.8%の上昇で 119.9、Ⅲ期は同 0.9%の上昇で 121.0、Ⅳ期は同 2.2%の上昇で 123.7 と令和６年Ⅳ期以降５期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 121.3（前年同期末比 13.6%）、Ⅱ期 123.3（同 8.3%）、Ⅲ期 121.0（同 11.3%）、Ⅳ期 121.9（同 5.6%）と令和５年Ⅱ期以降 11 期連続で前年を上回った。



（図 31、統計表第４表）

（９）プラスチック製品工業

① 概　況

生産指数は前年比 7.6%（寄与度 0.52）で 100.5 となり、３年連続で上昇した。

在庫指数は前年末比▲0.1%（寄与度▲0.01）で 105.3 となり、２年ぶりに低下した。

（図 32、図 33、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図32　プラスチック製品工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

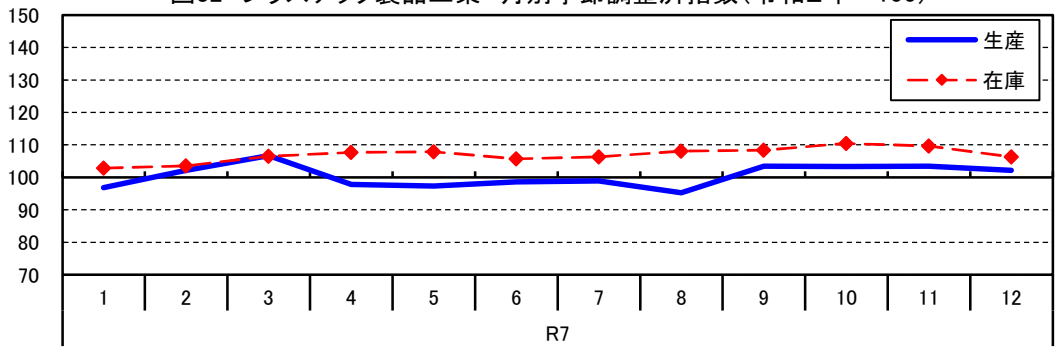
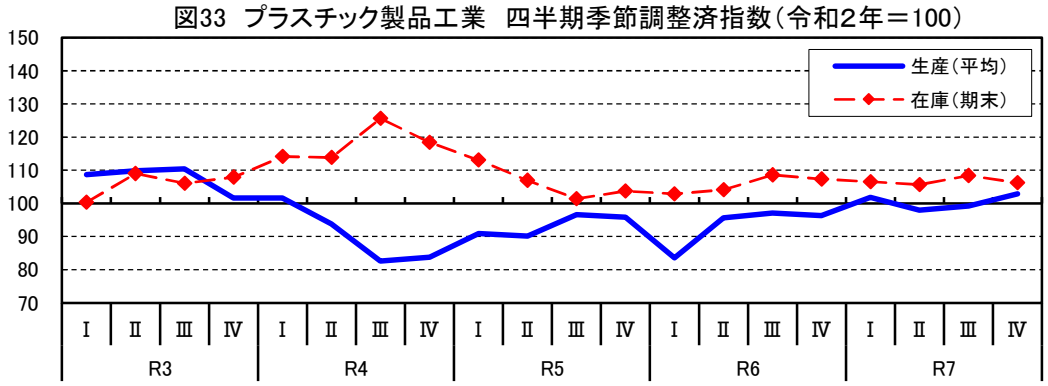


図33　プラスチック製品工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

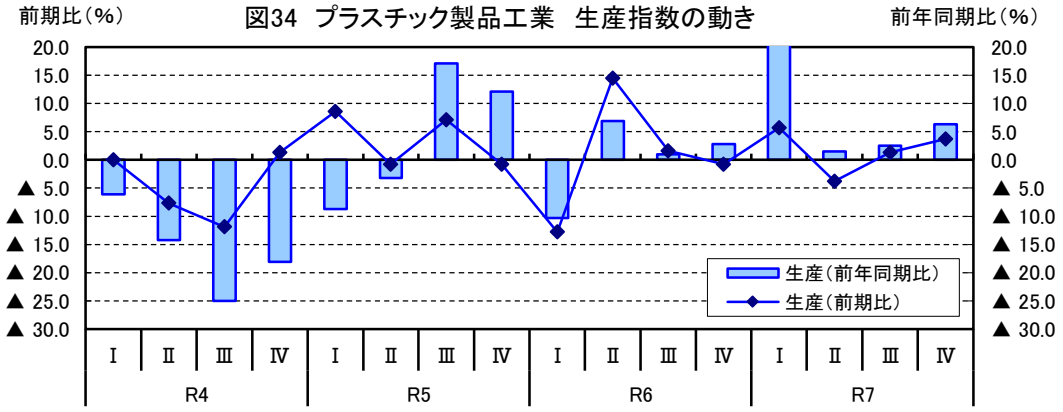


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 5.7%の上昇で 101.8 となり、Ⅱ期は同▲3.8%で 97.9 となったが、Ⅲ期は同 1.3%の上昇で 99.2、Ⅳ期は同 3.7%の上昇で 102.9 と２期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 99.5（前年同期比 22.2%）、Ⅱ期 100.2（同 1.5%）、Ⅲ期 97.0（同 2.5%）、Ⅳ期 105.2（同 6.3%）と令和６年Ⅱ期以降７期連続で前年を上回った。

（図 34、統計表第３表）

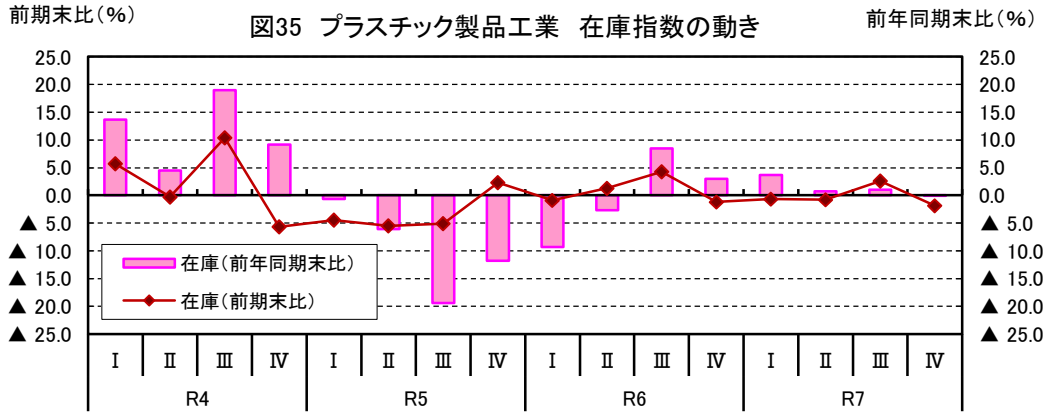


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比▲0.7%で 106.5、Ⅱ期は同▲0.8%で 105.7 と令和６年Ⅳ期以降３期連続で低下し、Ⅲ期は同 2.6%の上昇で 108.4 となったが、Ⅳ期は同▲1.9%で 106.3 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 103.6（前年同期末比 3.7%）、Ⅱ期 104.8（同 0.7%）、Ⅲ期 112.7（同 1.0%）と令和６年Ⅲ期以降５期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期 105.3（同▲0.1%）となった。

（図 35、統計表第３表）



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概　況

生産指数は前年比 3.7%（寄与度 0.13）で 104.8 となり、４年ぶりに上昇した。

在庫指数は前年末比 45.7%（寄与度 1.49）で 95.9 となり、２年ぶりに上昇した。

（図 36、図 37、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図36　パルプ･紙･紙加工品工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

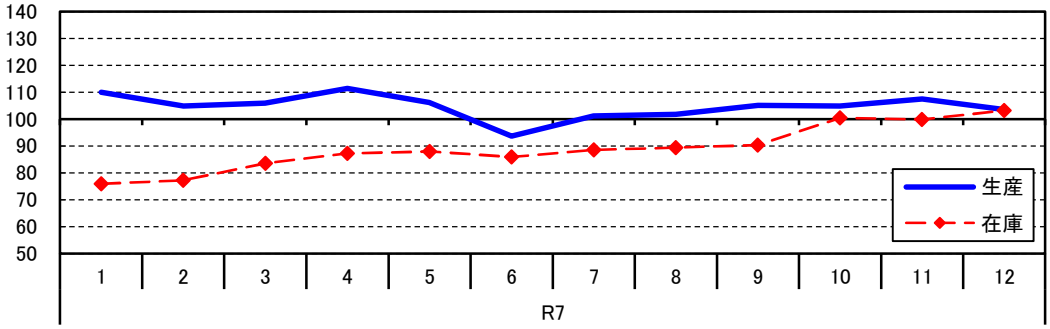
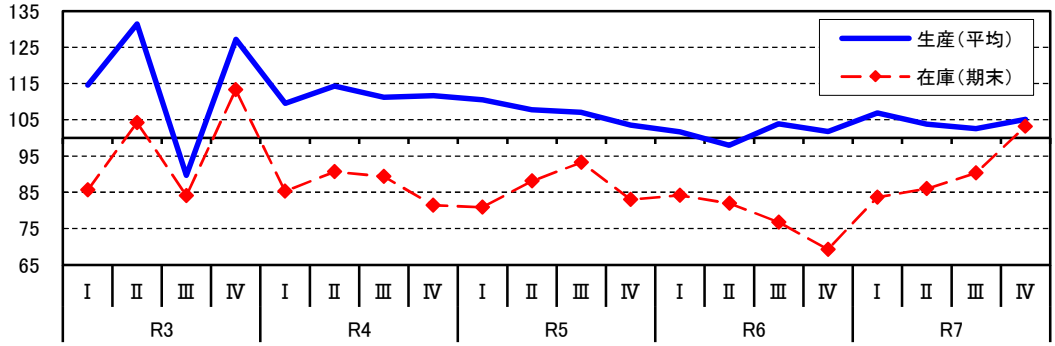


図37　パルプ･紙･紙加工品工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

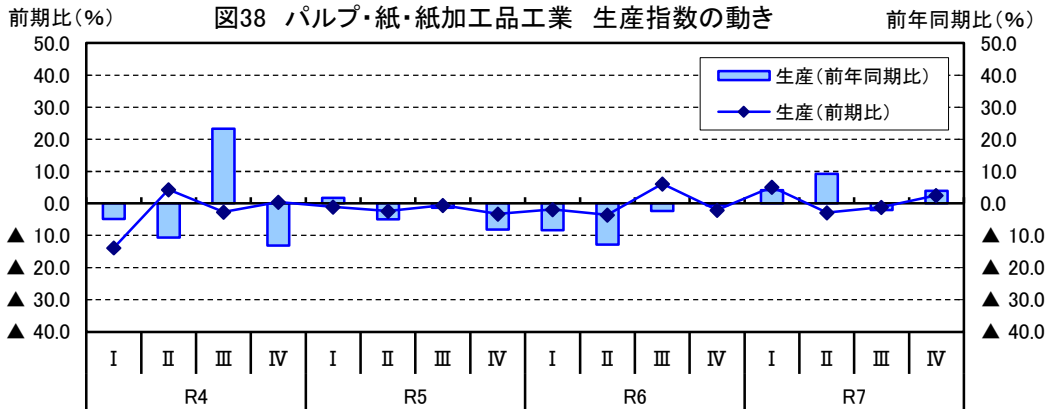


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 5.1%の上昇で 106.9 となり、Ⅱ期は同▲2.9%で 103.8、Ⅲ期は同▲1.2%で 102.6 と 2 期連続で低下したが、Ⅳ期は同 2.5%の上昇で 105.2 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 109.1（前年同期比 4.1%）と 8 期ぶりに前年を上回り、Ⅱ期 100.8（同 9.3%）と 2 期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期 106.2（同▲2.1%）となり、Ⅳ期 102.9（同 3.9%）となった。

（図 38、統計表第 3 表）

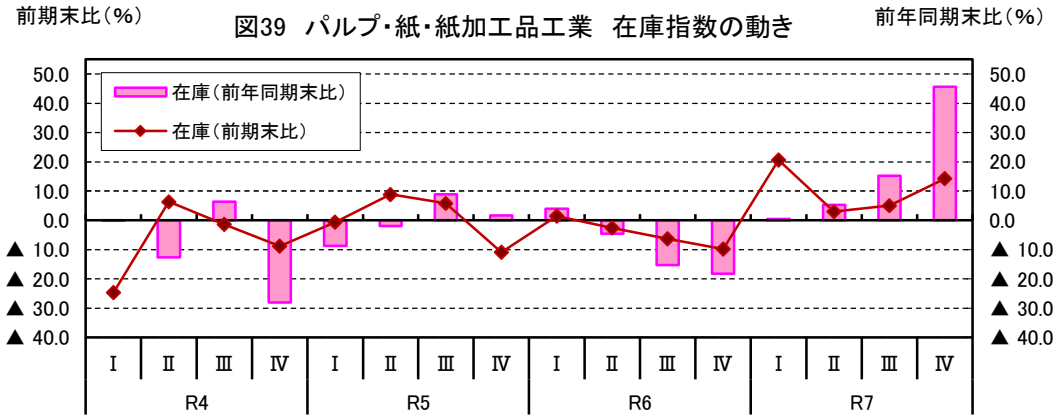


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 20.6%の上昇で 83.6、Ⅱ期は同 2.9%の上昇で 86.0、Ⅲ期は同 5.0%の上昇で 90.3、Ⅳ期は同 14.3%の上昇で 103.2 と 4 期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 81.9（前年同期末比 0.4%）、Ⅱ期 80.7（同 5.2%）、Ⅲ期 95.5（同 15.3%）、Ⅳ期 95.9（同▲45.7%）と 4 期連続で前年を上回った。

（図 39、統計表第 4 表）



（11）繊維工業

① 概　況

生産指数は前年比▲5.2%（寄与度▲0.08）で 92.2 となり、３年連続で低下した。

在庫指数は前年末比▲3.8%（寄与度▲0.07）で 76.6 となり、２年ぶりに低下した。

（図 40、図 41、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図40　繊維工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

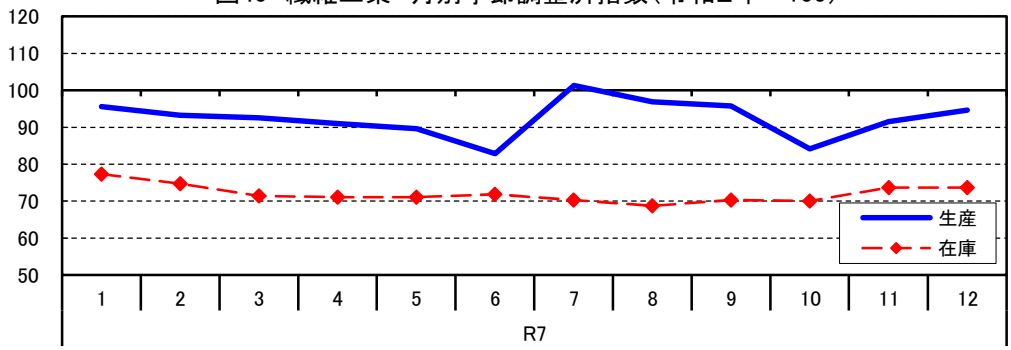
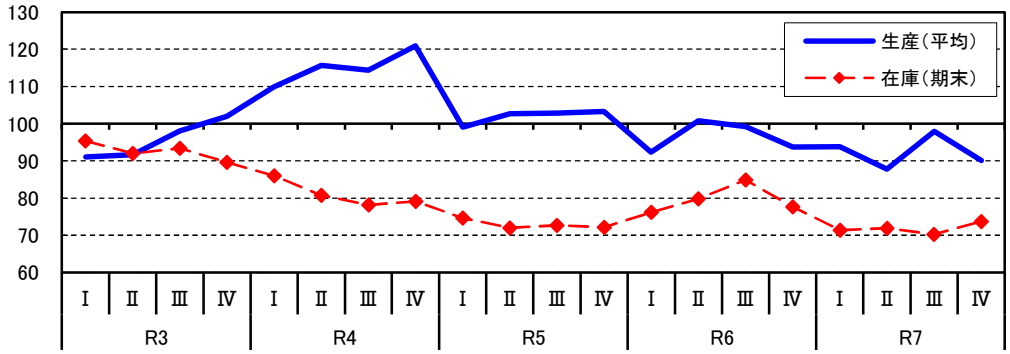


図41　繊維工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



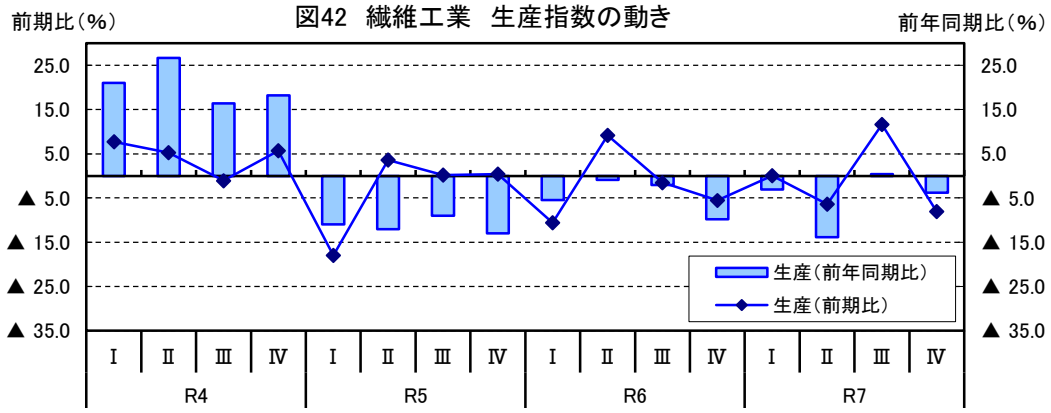
② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 0.1%の上昇で 93.8、Ⅱ期は同▲6.4%で 87.8、Ⅲ期は同 11.6%の上昇で 98.0、Ⅳ期は同▲8.1%で 90.1 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 92.5（前年同期比▲3.1%）、Ⅱ期 88.6（同▲13.9%）と令和５年Ⅰ期以降 10 期連続前年を下回ったが、Ⅲ期 100.3（同 0.4%）となり、Ⅳ期 87.5（同▲3.8%）となった。

（図 42、統計表第 3 表）

図42　繊維工業　生産指数の動き



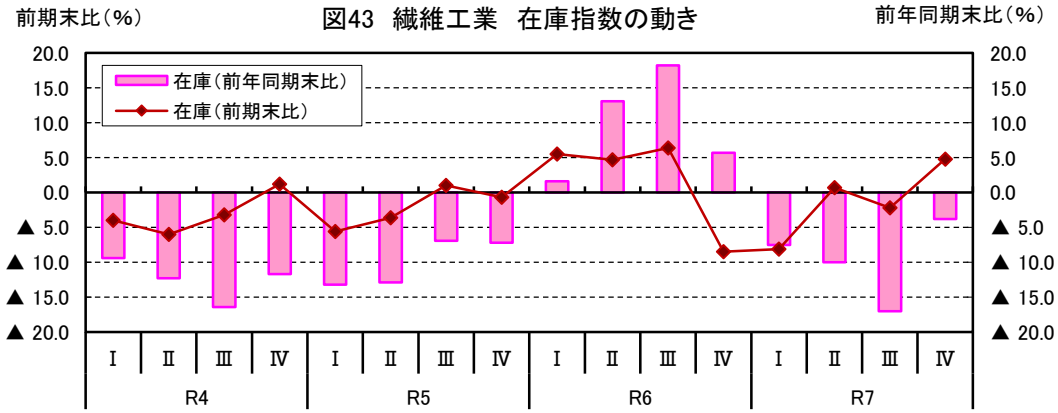
③ 在　庫

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期末比▲8.1%で 71.4 と令和６年Ⅳ期以降２期連続で低下し、Ⅱ期は同 0.7%の上昇で 71.9、Ⅲ期は同▲2.2%で 70.3、Ⅳ期は同 4.8%の上昇で 73.7 となった。

また、原指数は、Ⅰ期 69.9（前年同期末比▲7.5%）、Ⅱ期 72.4（同▲10.0%）、Ⅲ期 71.1（同▲17.0%）、Ⅳ期 76.6（同▲3.8%）と４期連続で前年を下回った。

（図 43、統計表第 4 表）。

図43　繊維工業　在庫指数の動き



(12) 食料品工業

① 概　況

生産指数は前年比▲2.9%（寄与度▲0.15）で 96.7 となり、３年連続で低下した。

在庫指数は前年末比 15.0%（寄与度 0.43）で 62.0 となり、５年ぶりに上昇した。

（図 44、図 45、統計表第 3 表、統計表第 4 表）

図44　食料品工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

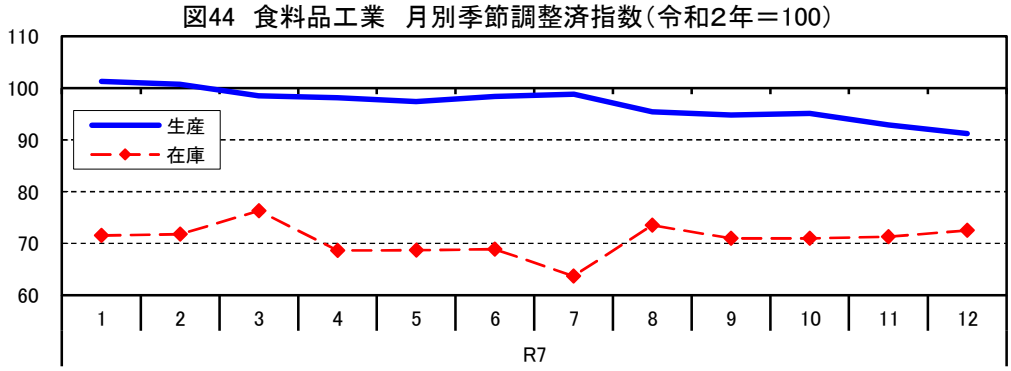
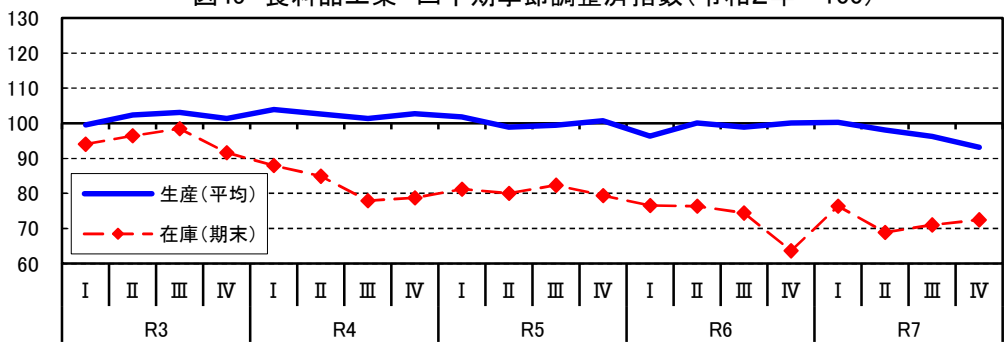


図45　食料品工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

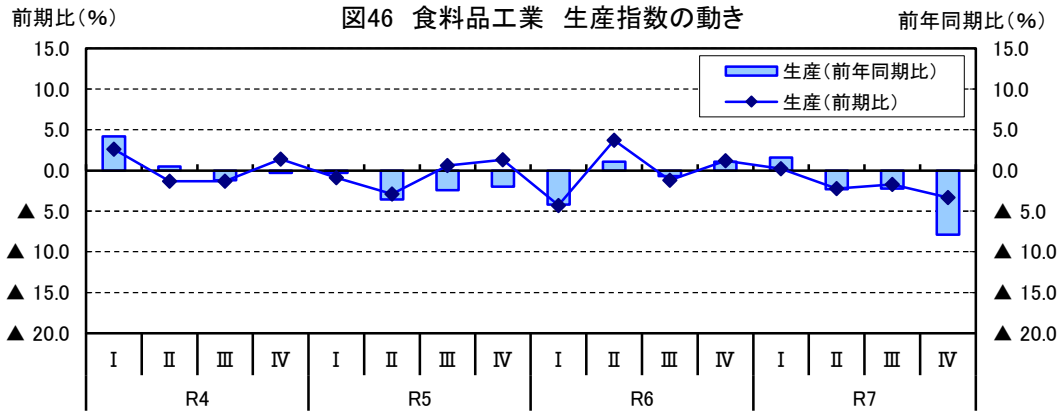


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 0.2%の上昇で 100.2 と令和６年Ⅳ期以降２期連続で上昇したが、Ⅱ期は同▲2.2%で 98.0、Ⅲ期は同▲1.7%で 96.3、Ⅳ期は同▲3.3%で 93.1 と３期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 93.0（前年同期比 1.6%）と令和６年Ⅳ期以降２期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期 100.2（同▲2.3%）、Ⅲ期 96.3（同▲2.2%）、Ⅳ期 97.3（同▲7.9%）と３期連続で前年を下回った。

（図 46、統計表第３表）

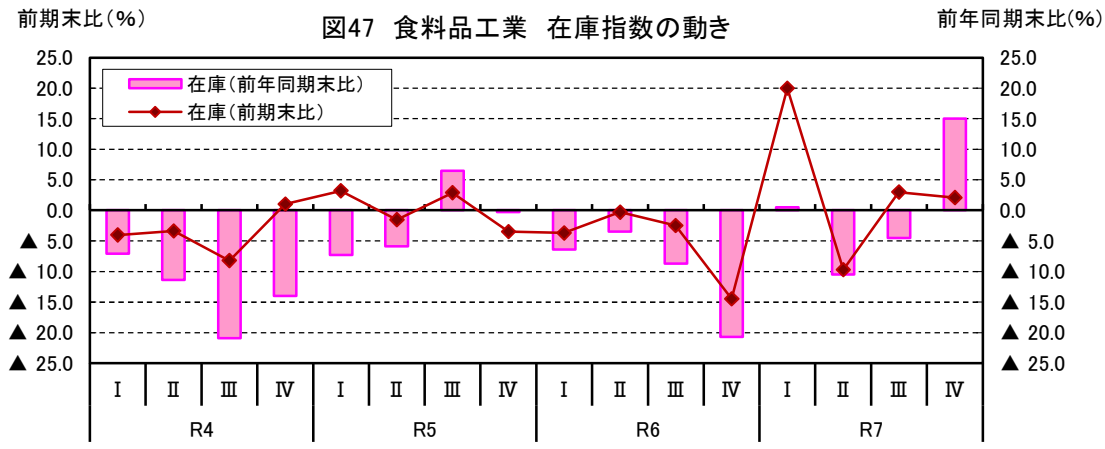


③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、Ⅰ期は前期末比 20.0%の上昇で 76.3 と６期ぶりに上昇し、Ⅱ期は同▲9.7%で 68.9 となったが、Ⅲ期は同 3.0%の上昇で 71.0、Ⅳ期は同 2.1%の上昇で 72.5 と２期連続で上昇した。

また、原指数は、Ⅰ期 77.4（前年同期末比 0.5%）と６期ぶりに前年を上回り、Ⅱ期 74.2（同▲10.5%）、Ⅲ期 73.0（同▲4.5%）と２期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期 62.0（同 15.0%）となった。

（図 47、統計表第４表）



(13) その他工業

① 概　況

生産指数は前年比▲0.3%（寄与度▲0.02）で 103.1 となり、４年連続で低下した。

在庫指数は２年ぶりに上昇した。（指数値は秘匿のため非公表）

（図 48、図 49、統計表第 3 表）

図48 その他工業　月別季節調整済指数（令和2年＝100）

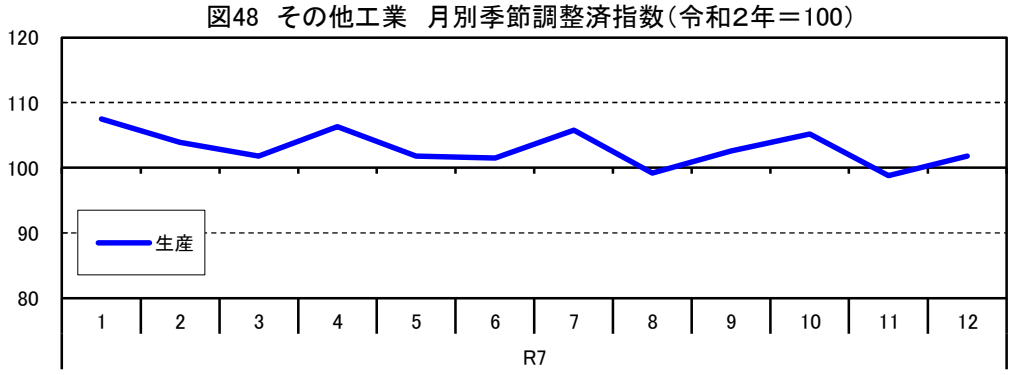
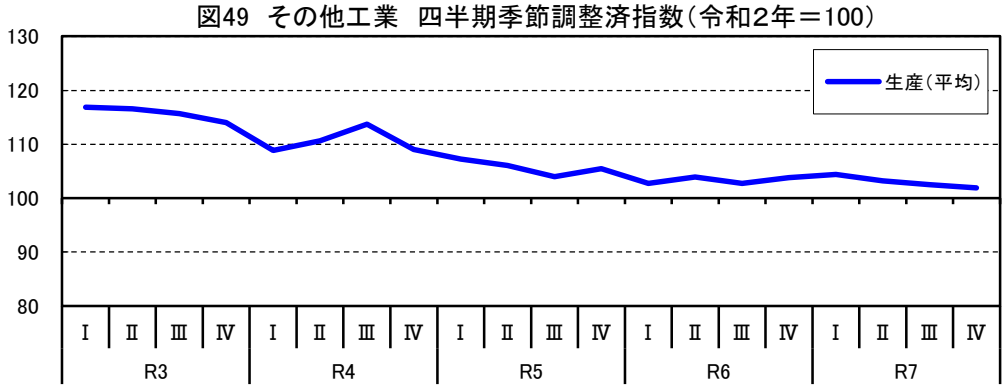


図49 その他工業　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

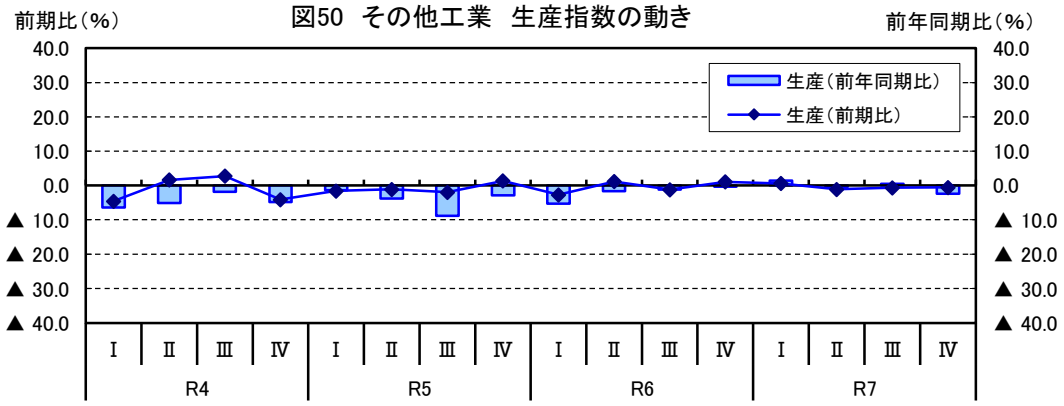


② 生　産

四半期別季節調整済生産指数は、Ⅰ期は前期比 0.6%の上昇で 104.4 と令和６年Ⅳ期以降２期連続で上昇したが、Ⅱ期は同▲1.1%で 103.2、Ⅲ期は同▲0.7%で 102.5、Ⅳ期は同▲0.6%で 101.9 と３期連続で低下した。

また、原指数は、Ⅰ期 103.5（前年同期比 1.5%）と 13 期ぶりに前年を上回り、Ⅱ期 102.8（同▲0.4%）、Ⅲ期 99.2（同 0.5%）、Ⅳ期 107.1（同▲2.4%）となった。

（図 50、統計表第３表）



③ 在　庫

四半期別季節調整済在庫指数は、令和７年Ⅰ期に３期ぶりに上昇し、Ⅱ期は低下した。以降２期連続で上昇した。

また、原指数は、令和７年Ⅰ期に２期ぶりに前年を上回り、Ⅱ期は前年を下回った。以降２期連続で前年を上回った。

３ 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

（１）最終需要財

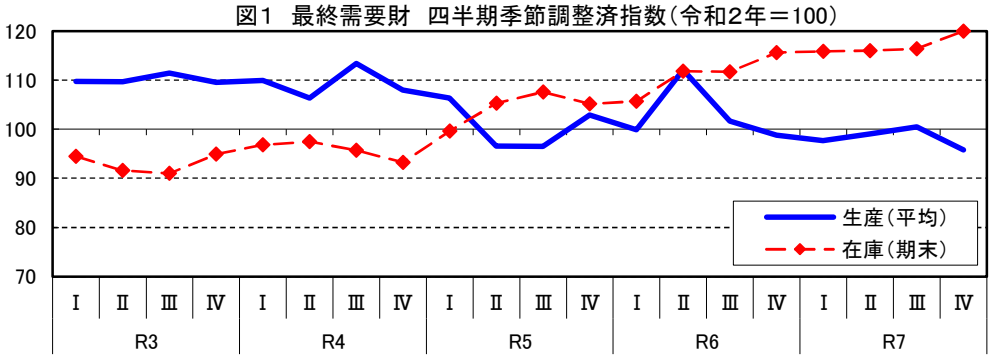
生産は前年比（原指数）▲4.7％で 98.4 となり、在庫は前年末比（原指数）4.0％の上昇で 116.7 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲1.1％で 97.7 と令和６年Ⅲ期以降３期連続で低下し、Ⅱ期は同 1.4％の上昇で 99.1、Ⅲ期は同 1.4％の上昇で 100.5 と２期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲4.7％で 95.8 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期末比 0.3％の上昇で 115.9、Ⅱ期は同 0.1％の上昇で 116.0、Ⅲ期は同 0.3％の上昇で 116.4、Ⅳ期は同 3.1％の上昇で 120.0 と令和６年Ⅳ期以降５期連続で上昇した。

（図 1、統計表第２表･第５表･第６表）

図1　最終需要財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



① 投資財

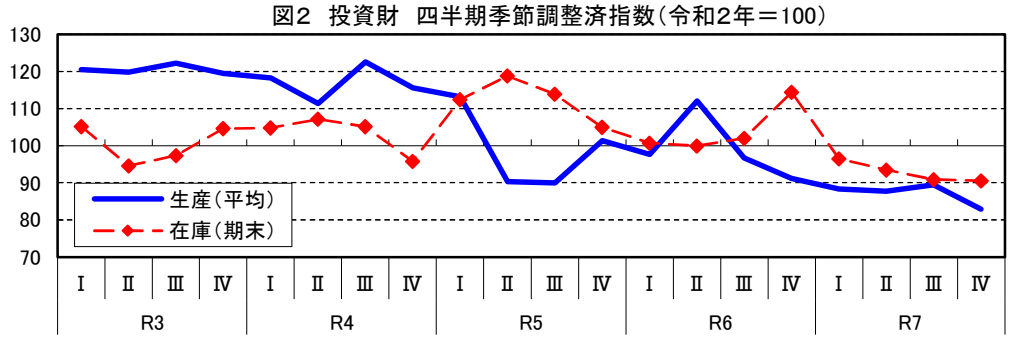
投資財全体では、生産が前年比（原指数）▲12.3%で 87.2 となり、在庫が前年末比（原指数）▲16.9%で 89.3 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲3.2%で 88.3、Ⅱ期は同▲0.7%で 87.7 と令和６年Ⅲ期以降４期連続で低下し、Ⅲ期は同 2.1%の上昇で 89.5 となったが、Ⅳ期は同▲7.4%で 82.9 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲15.6%で 96.5、Ⅱ期は同▲3.1%で 93.5、Ⅲ期は同▲2.8%で 90.9、Ⅳ期は同▲0.4%で 90.5 と４期連続で低下した。

（図２、統計表第２表･第５表･第６表）

図2　投資財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



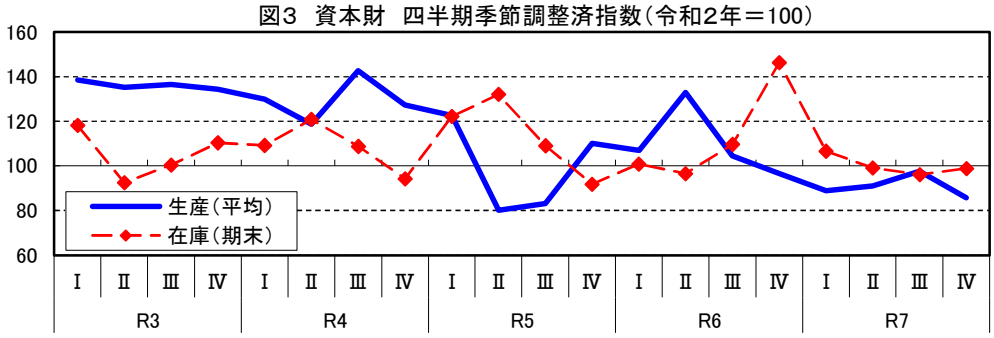
投資財のうち**資本財**は、生産が前年比（原指数）▲16.7%で 90.9 となり、在庫が前年末比（原指数）▲27.5%で 98.1 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲8.1%で 88.9 と令和６年Ⅲ期以降３期連続で低下し、Ⅱ期は同 2.4%の上昇で 91.0、Ⅲ期は同 7.3%の上昇で 97.6 と２期連続で上昇したが、Ⅳ期は同▲12.2%で 85.7 となった。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲27.1%で 106.6、Ⅱ期は同▲7.0%で 99.1、Ⅲ期は同▲3.0%で 96.1 と３期連続で低下したが、Ⅳ期は同 2.8%の上昇で 98.8 となった。

（図３、統計表第２表･第５表･第６表）

図3　資本財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



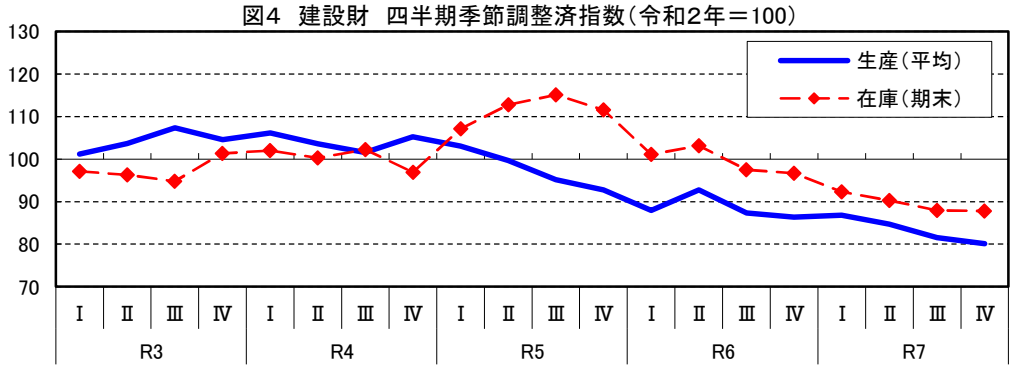
また、**建設財**は生産が前年比（原指数）▲6.8%で 83.2 となり、在庫が前年末比（原指数）▲8.4%で 84.5 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比 0.6%の上昇で 86.8 となり、Ⅱ期は同▲2.4%で 84.7、Ⅲ期は同▲3.8%で 81.5、Ⅳ期は同▲1.7%で 80.1 と 3 期連続で低下した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲4.6%で 92.3、Ⅱ期は同▲2.2%で 90.3、Ⅲ期は同▲2.7%で 87.9、Ⅳ期は同▲0.1%で 87.8 と令和 6 年 3 期以降 6 期連続で低下した。

（図 4、統計表第 2 表･第 5 表･第 6 表）

図4　建設財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



② 消費財

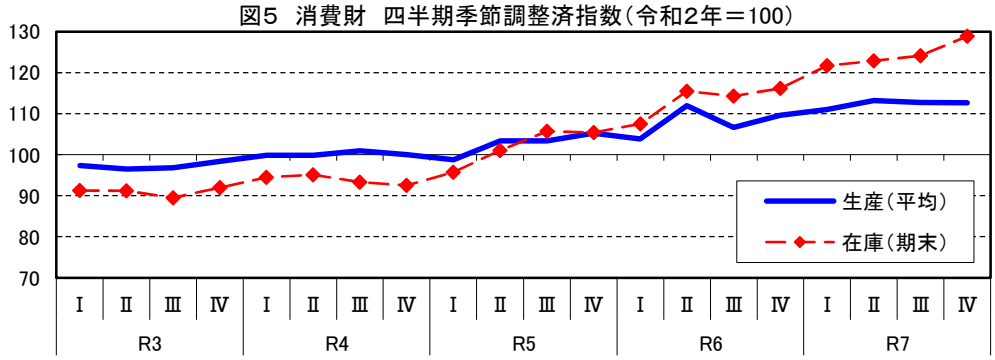
消費財全体では、生産が前年比（原指数）4.2%の上昇で 112.5 となり、在庫が前年末比（原指数）9.9%の上昇で 124.9 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比 1.3%の上昇で 111.0、Ⅱ期は同 2.0%の上昇で 113.2 と令和 6 年Ⅳ期以降 3 期連続で上昇したが、Ⅲ期は同▲0.4%で 112.7、Ⅳ期は同▲0.1%で 112.6 と 2 期連続で低下した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比 4.7%の上昇で 121.7、Ⅱ期は同 1.0%の上昇で 122.9、Ⅲ期は同 1.0%の上昇で 124.1、Ⅳ期は同 3.9%の上昇で 128.9 と令和 6 年Ⅳ期以降 5 期連続で上昇した。

（図 5、統計表第 2 表･第 5 表･第 6 表）

図5　消費財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



（２）生産財

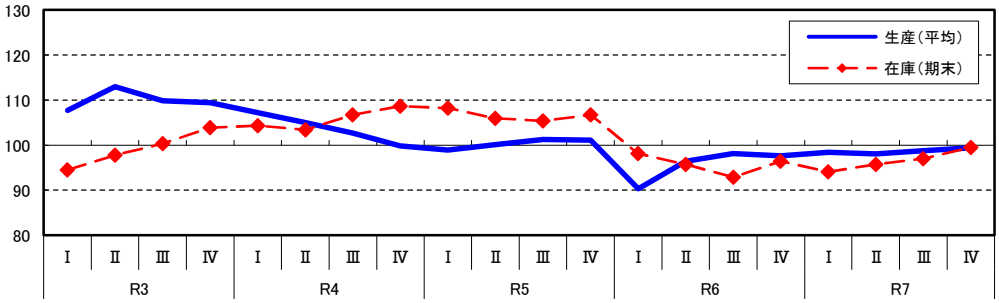
生産財全体では、生産が前年比（原指数）3.1%の上昇で 98.7 となり、在庫が前年末比（原指数）5.3%の上昇で 98.5 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比 0.8%の上昇で 98.4 となり、Ⅱ期は同▲0.4%で 98.0 となったが、Ⅲ期は同 0.7%の上昇で 98.7、Ⅳ期は同 0.7%の上昇で 99.4 と２期連続で上昇した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲2.4%で 94.1 となり、Ⅱ期は同 1.7%の上昇で 95.7、Ⅲ期は同 1.4%の上昇で 97.0、Ⅳ期は同 2.6%の上昇で 99.5 と３期連続で上昇した。

（図６、統計表第２表･第５表･第６表）

図6　生産財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



①　鉱工業用生産財

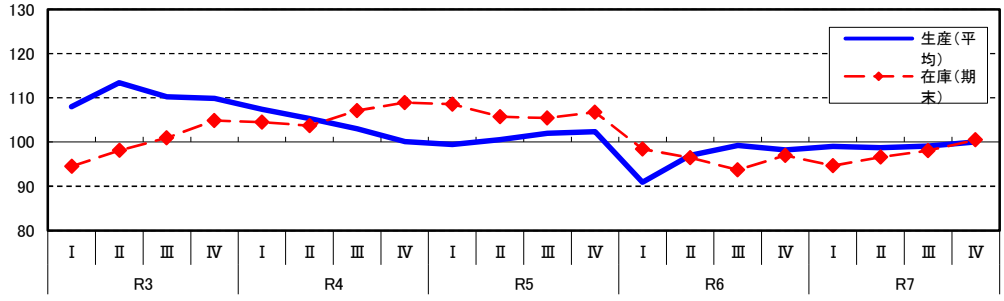
生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比（原指数）3.0%の上昇で 99.3 となり、在庫が前年末比（原指数）5.8%の上昇で 99.1 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比 0.8%の上昇で 99.0 となり、Ⅱ期は同▲0.3%で 98.7 となったが、Ⅲ期は同 0.4%の上昇で 99.1、Ⅳ期は同 0.9%の上昇で 100.0 と２期連続で上昇した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲2.4%で 94.6 となり、Ⅱ期は同 2.1%の上昇で 96.6、Ⅲ期は同 1.4%の上昇で 98.0、Ⅳ期は同 2.6%の上昇で 100.5 と３期連続で上昇した。

（図７、統計表第２表･第５表･第６表）

図7　鉱工業用生産財　四半期季節調整済指数（令和2年＝100）



② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比（原指数）5.9%の上昇で 80.6 となり、在庫が前年末比（原指数）▲4.8%で 84.1 となった。

また、生産指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲1.5%で 79.6、Ⅱ期は同▲2.0%で 78.0 と２期連続で低下したが、Ⅲ期は同 4.5%の上昇で 81.5、Ⅳ期は同 2.1%の上昇で 83.2 と２期連続で上昇した。

在庫指数（季節調整済指数）を四半期別にみると、Ⅰ期は前期比▲5.3%で 82.7、Ⅱ期は同▲8.0%で 76.1、Ⅲ期は同▲0.4%で 75.8 と３期連続で低下したが、Ⅳ期は同 2.8%の上昇で 77.9 となった。

（図８、統計表第２表･第５表･第６表）

図8 その他用生産財 四半期季節調整済指数（令和2年＝100）

